

# 心を耕す積極的な生徒指導を 推進する特別活動の取組事例

令和2年3月  
広島県教育委員会



## はじめに

近年、生産年齢人口の減少、人工知能（A I）の飛躍的な進化、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は急速に変化し、将来の予測が困難な時代になっています。このような時代にあつて、学校教育には、子供たちに様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決できる資質・能力を育成することなどが求められています。

そのような中、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、多様な他者と協働する意義を理解し、行動の仕方を身に付けたりすることや、課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすること、自己実現を図ろうとする態度を養うことなどを目的とした特別活動がより一層、重要視されています。

本事例集では、令和元年度の生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校の様々な取組事例が紹介されています。各指定校においては、社会性をはぐくみ、児童生徒間の絆を強め、望ましい集団を育成することを目的とし、各教科や特別活動等の中で、体験活動を多く取り入れ充実させております。

各学校におかれましても、社会奉仕活動や異年齢交流等を通じて、児童生徒自らが課題を発見、解決するといった主体的な活動を推進していただきたいと思ひます。

本資料が各学校での取組の参考となり、特別活動のより一層の充実に役立つことを願っています。

令和2年3月  
豊かな心育成課

## 目 次

<b>はじめに</b>	1		
<b>目 次</b>	2		
<b>【小学校(学級活動)】</b>		<b>【中学校(学級活動)】</b>	
○ 大竹市立大竹小学校	3	○ 福山市立幸千中学校	22
「もうすぐ4年生～今の自分をのぼしていこう～」		「話し合い活動を通して～『みんなにとって居心地の良い学校とは?』～」	
○ 廿日市市立宮内小学校	4	○ 福山市立培遠中学校	23
「小中連携を生かした清掃活動」		「生徒のセルフエスティームを高める」	
○ 府中町立府中北小学校	5	○ 竹原市立竹原中学校	24
「府中北小学校〈あいさつ道〉」		「討議の時間」	
○ 安芸太田町立加計小学校	6	<b>【中学校(生徒会活動)】</b>	
「学級活動(1)話し合い活動の充実」		○ 福山市立東朋中学校	25
○ 庄原市立庄原小学校	7	「『自立貢献の生徒の育成』を目指した生徒会活動」	
「いいとこ見つけて、レジリエンスアップ」		○ 東広島市立磯松中学校	26
<b>【小学校(児童会活動)】</b>		「生徒会活動の充実」	
○ 廿日市市立廿日市小学校	8	○ 廿日市市立廿日市中学校	27
「委員会のいじめ防止の取組」		「掃除」	
○ 廿日市市立平良小学校	9	○ 府中町立府中中学校	28
「児童が主役になって取り組む委員会活動で自己有用感を育てる」		「みんなで作る学校のきまり」	
○ 府中町立府中南小学校	10	○ 府中町立府中緑ヶ丘中学校	29
「主体性を育む児童会活動～小中合同挨拶運動を通して」		「地域教育と学校支援の在り方」	
○ 海田町立海田東小学校	11	○ 熊野町立熊野中学校	30
「『あいさつ運動』の取組について」		「委員会活動の活性化」	
○ 海田町立海田南小学校	12	○ 安芸高田町立吉田中学校	31
「あいさつ日本一の南っ子」		「2weeks challenge」	
○ 安芸高田市立愛郷小学校	13	○ 三原市立第三中学校	32
「児童会委員会の主体的な活動」		「三中チャレンジカップ」	
○ 北広島町立壬生小学校	14	○ 三原市立本郷中学校	33
「いじめ撲滅運動」		「生徒会を中心としたボランティア活動の充実」	
○ 三原市立田野浦小学校	15	○ 三次市立三次中学校	34
「あいさつ三原一」		「ミニボランティア活動」	
○ 尾道市立栗原小学校	16		
「児童の生活満足感を上げる生徒指導」			
○ 尾道市立高須小学校	17		
「ハートフルウィーク」			
○ 尾道市立久保小学校	18		
「あいさつ週間」			
○ 尾道市立向島中央小学校	19		
「面白い学校～思いやりを育てる～」			
○ 三次市立三次小学校	20		
「あんたが大賞」			
○ 三次市立十日市小学校	21		
「児童主体の児童会活動」			
		<b>【中学校(学校行事)】</b>	
		○ 大竹市立大竹中学校	35
		「生命尊重の日」	
		○ 廿日市市立大野東中学校	36
		「生命尊重～いじめ撲滅に向けて～」	
		○ 海田町立海田中学校	37
		「体育祭」	
		○ 三原市立宮浦中学校	38
		「ふれあい奉仕活動」	
		○ 尾道市立栗原中学校	39
		「高め合う仲間」	
		○ 尾道市立向東中学校	40
		「体育大会」	
		○ 尾道市立高西中学校	41
		「自治的な活動による主体的な態度を通じた自己肯定感の育成」	
		○ 三次市立十日市中学校	42
		「文化祭合唱 縦割り練習」	
		○ 庄原市立庄原中学校	43
		「合唱祭」	
		<b>【義務教育学校(児童生徒会活動)】</b>	
		○ 府中市立府中学園	44
		「府中学園人権週間」	
		<b>【高等学校(ホームルーム活動)】</b>	
		○ 広島県立河内高等学校	45
		「他者を認める姿勢を育むホームルーム活動の実践」	
		<b>【高等学校(生徒会活動)】</b>	
		○ 広島県立三原東高等学校	46
		「特別活動における生徒の自己肯定感を高める取組」	
		○ 広島県立松永高等学校	47
		「生徒会役員選挙」	
		○ 広島県立安西高等学校	48
		「『自転車セーフティチャレンジ!』に参加する」	
		<b>【高等学校(学校行事)】</b>	
		○ 広島県立大竹高等学校	49
		「1学年 地域交流」	
		○ 広島県立沼南高等学校	50
		「第16回 沼南高等学校 体育祭」	
		○ 広島県立黒瀬高等学校	51
		「進路講演会及び学校間連携事業合同生徒交流会への取り組み」	
		○ 広島県立福山商業高等学校	52
		「体育祭」	



令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	大竹市立大竹小学校	校長	野崎 光弘	生徒指導主事	上田屋 陽子
-----	-----------	----	-------	--------	--------

取組事例名 『もうすぐ4年生～今の自分をのばしていこう～』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「認め合い」	1	「主体性・積極性」	2	「自己理解・自らの自信」	3

取組のねらい

一年間を振り返って自分の成長を実感するとともに、4年生への進級に向けて、なりたい自分に近づくためにめあてをもって学校生活を送ることができるようにする。

取組の具体的内容	取組の創意工夫
----------	---------

事前の指導

○これまでの自分や今の自分について考える。(ワークシート)



本時

<つかむ>

○1年間の自分を振り返り、3年生で成長したことや増えたと思う自分のよさについて交流する。

- ・友達が書いてくれた自分のよさを知る→全体で交流

<さぐる>

○4年生の生活について知り、どんな4年生になりたいか話し合う。



<見つける>

○なりたい4年生の姿に近づくために、今から取り組むことを話し合う。(グループでの話し合い)

<決める>

○なりたい4年生の姿に近づくために、今ががんばることを決めて、カードに書く。



事後の指導

○自分の立てためあてを意識して生活し、取組を一週間チェックする。

『自分への自信・認め合い』

『進級への期待』

『具体的な見通し』

『自己決定』

『リフレクション』

取組の成果と課題

○年度当初からの振り返りを行うことで、児童が改めて自分の頑張りや成長に気付き、自信をもつことができた。友達同士でよいところを見つけ合うことで、自分では気付かなかった自分のよさを自覚することができた。

○4年生の学校生活についてのイメージを広げることで、4年生に向けてさらに自分を高めたいという意欲をもつことができた。

●自分の成長を振り返るためのポートフォリオ教材の在り方を検討していく必要がある。

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立宮内小学校	校長	由田 広富	生徒指導主事	久保 恵子
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『小中連携を生かした清掃活動』

**取組における育てたい資質・能力**

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「表現力」	3	「主体性」	1	「自らの自信」	2

**取組のねらい**

- 中学生から6年生が、6年生から1～5年生が、正しい掃除の仕方や工夫を教わることで、全校児童に上手に掃除ができるようにさせる。
- 6年生に、最高学年としての自覚をもたせるとともに自己有用感を感じさせる。
- 下級生に中学生や6年生に対する尊敬と憧れの思いをもたせる。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『自己有用感を育てながら』
----------	--------------------------

- 小中合同清掃
- ① 中学校区の野坂中学校、地御前小学校と宮内小学校で同時に取り組む。トイレを中心に各場所に中学2年、6年生の担当を決め、グループで顔合わせを行う。
  - ② 中学2年生は、6年生に指導しながら一緒に掃除をし、その姿を見せる。
  - ③ 活動後、6年生は指導してもらった中学2年生にお礼の手紙を書く。

- 6年リーダー清掃
- ① 1週間、6年生が1～5年の各掃除場所に行き、指導しながら一緒に掃除する。



- ② 1～5年生より6年生へお礼の手紙を渡す。



- ・中学校と掃除の仕方が違うところについては、事前にその掃除のやり方を知らせ、指導をお願いする。(中学生に対し、「さすが」という気持ちをもたせる。)
- ・中学校に入って使用する「掃除のマイスターカード」を中学生より一人一人もらい、カードについての説明を聞くことで、中学校での掃除を意識させる。
- ・手紙は個人名で、中学生全員に渡せるようにする。

- ・6年生にリーダーとしての自覚をもたせ、具体的に指導できるように、事前に学級指導する。(心構え、掃除時間前に準備し待機する、集まって号令をかけてから始める、どのあたりを隅々まで掃除すると効果的か考えさせる等)

- ・6年生全員一人一人に個人名で手紙を渡せるようにする。
- ・6年リーダー清掃の写真を掲示する。

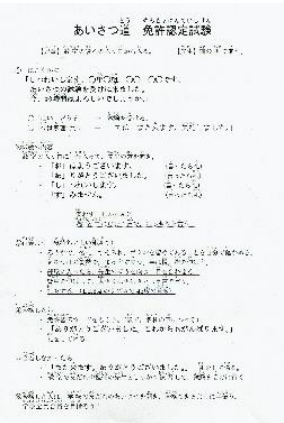



**取組の成果と課題**

- 職員アンケートの「児童は黙って掃除をしているか」について、2学期末は、41%であったが、1月末は75%であった。実際に、掃除時間に話し声が聞こえなくなっている。
- 中学生への手紙の中に、具体的に教えてもらったこと、中学生の姿を見て学んだこと、自分たちも見習いたいと実感したことが書かれてあり、掃除が上手になるとともに中学生への尊敬の気持ちを感じた様子がうかがえた。
- 手紙の中で、中学生にやさしく教えてもらったことで中学校入学に当たっての不安が減り、入学して中学3年と1年の関係の中でもいろいろと教えてほしいというように先輩に憧れる様子が見られた。
- 6年生がリーダーとなって掃除をする時、やさしくていねいに教え、自らもいつも以上に気を付けて、上手に掃除をする様子が見られた。また、下級生も静かに素直に見習う様子が見られた。
- 野坂拭きが定着した。
- ていねいにすみずみまで掃除をするということは、どういうところに気を付ければよいかということがわかり、掃除の仕方が上手になった。
- 普段の掃除に戻った時、引き続き黙って隅々まで掃除できる児童と、指導が活かされずおしゃべりをしてしまう児童がいる。引き続き指導を入れていく必要がある。

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中北小学校	校長	黒山 寛司	生徒指導主事	寺口 和幸
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名		『府中北小学校〈あいさつ道〉』			
取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
協調性	2	主体性	1	向上心	3
取組のねらい					
<p>○児童にあいさつをする意欲を持たせ、楽しくあいさつする習慣を定着させるとともに、明るく自信をもってあいさつができる子を育てる。</p> <p>○積極的にあいさつをすると、する人もされる人も気持ちが良いのだということを感じさせ、意欲的にあいさつをしようとする態度を養う。</p>					
取組の具体的内容			取組の創意工夫 『関わり合い』		
<ol style="list-style-type: none"> <li>あいさつ道の内容のプリント（試験の受け方）を児童に配付するとともに、教室に掲示して紹介する。（声の出し方、気を付けや例の仕方、視線など）</li> <li>「してみせ、させてみて」指導し、子どもたちに取り組ませる。（個人や学級で練習）</li> <li>ピア学年であいさつ道を教え、練習する時間を取る。</li> <li>学級担任が試験を行う。</li> <li>学級で合格した児童は、校長又は教頭から免許認定試験を受ける。 <ul style="list-style-type: none"> <li>合格した児童は、令和元年度のあいさつ道免許皆伝のバッジをもらう。</li> <li>合格しなかった場合は、再度学級でしっかり練習して再試験を受ける。</li> <li>合格者をチェックし、合格していない子に合格した子が関わることで、全員合格を目指す。</li> </ul> </li> </ol>			 <ul style="list-style-type: none"> <li>児童の自主的な活動を重んじ、「なすことによって学ぶ」という指導原理を生かす。（結果より過程を大切に）</li> <li>1・6年，3・5年，2・4年のピアを決め、上学年があいさつのコツを教える。</li> <li>教職員は、自己肯定感と自己有用感を高めるため、活動を温かく見守り、大きな自信と新たな活動意欲が湧くような指導・助言を心がける。（ピア・サポートプログラムの活用）</li> </ul>		
					
取組の成果と課題					
<ul style="list-style-type: none"> <li>5月から始め、9月末には全員が合格した。あいさつに関する生活目標を5月と10月に取り組んだ。毎日クラスで振り返りを行い、学校全体で、5月82%、10月85%の達成率になった。</li> <li>はきはきとした大きな声で、礼儀正しく職員室に児童が入室できる児童が増えてきた。</li> <li>自分から進んで挨拶ができるまでには十分でなく、今後指導が必要である。（合格することではなく、日常的にあいさつを交わせるようにすることが目標）</li> </ul>					





令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	庄原市立庄原小学校	校長	西田 早苗	生徒指導主事	住田 里美
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『いいところ見つけて、レジリエンスアップ』

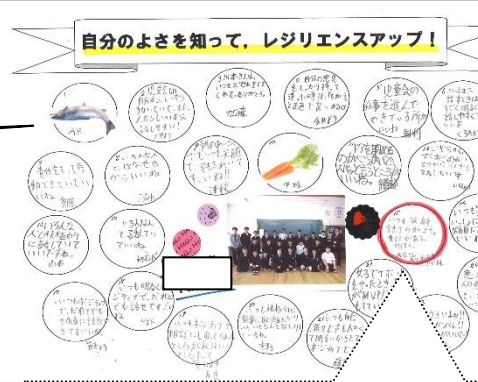
**取組における育てたい資質・能力**

<b>人間関係形成</b>		<b>社会参画</b>		<b>自己実現</b>	
「他者理解」	3	「自己有用感」	2	「回復力・自らの自信」	1

**取組のねらい**

- ・自分では気付かなかった自分のよさを感じることで、回復力（レジリエンス）や自己有用感を高める。
- ・一人一人のよさや頑張りを伝えることで、お互いに認め合える学級集団を育成する。

<b>取組の具体的内容</b> 【学級活動・本時の流れ】	<b>取組の創意工夫</b> 『つなぐ』
---------------------------------	-------------------------

<p>1 回復力とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回復力（レジリエンス）について確認する。</li> </ul> <p>『特別の教科 道徳』の学びとつなぐ 『個性の伸長』に関わる項目と関連付けた取組をする。</p> <p>2 学級の友達のよさは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「レジリエンスアップカード」に友達のよいところや頑張りを書く。</li> </ul> <p>3 自分のよさを感じよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級の友達が書いてくれた自分のよさや頑張りを読み、自分の強みや自分では気付かなかった自分のよさを知る。</li> </ul> <p>4 自分のよさは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・改めて自分のよさを書く。</li> </ul> <p>『学級の児童全員のよさをつなぐ』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校児童のコメント欄へは、その児童が好きなものを貼る。また、書くことが困難な児童もその児童が好きなものを貼り、名前を書かせる。</li> </ul> <p>5 活動を振り返って</p> <p>(児童の振り返りより)</p> <p>○みんながたくさん書いてくれた僕のよさは「おもしろい」でした。最初見た時はそれしかないのかと思ったけれど、それは僕の強みだと思いました。これからはみんなを笑顔にしていきたいです。(6年)</p> <p>○私は、みんなから「思いやりがある」と思われていてびっくりしました。これからは、もっと周りの人にやさしくしたいです。(4年)</p> <p>○いいところをいっぱい書いてもらってうれしかったです。友達のいいところをもっといっぱい見つけたいです。(2年)</p>	<p>『日常生活の中の課題を学級活動につなぐ』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童実態から学級活動の内容を考える。</li> <li>・注意を受けたら「どうせ…」「自分ばかり…」</li> <li>・自分にはいいところがない。</li> <li>・友達との関係が気になる。</li> <li>・できないと思うことにはチャレンジしたくない。</li> </ul> <p>『ゲーム感覚でよさ見つけをつなぐ』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1分間で友達のよさや頑張りを書く。</li> <li>・リレー形式でカードを回していく。</li> <li>・書く内容は声に出さない。(どんなことが書いてあるのかな？ワクワク感)</li> </ul> <p><b>自分のよさを知って、レジリエンスアップ!</b></p>  <p>(6年児童が書いた自分のいいところ)</p> <p>いつも笑顔。話すのが上手。明るい。責任感がある。 みんなありがとう!</p> <p>『保護者と児童のよさをつなぐ』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人懇談の際に保護者にもカードを見せる。</li> </ul>
---	--

**取組の成果と課題**

○全職員でレジリエンスについて研修した後、2年生から6年生まで担任と連携し同じ活動を仕組むことができた。

○懇談の際に保護者へ作成したカードを配付したことで、家庭においても育てたい資質・能力について考えてもらうきっかけになった。

- ・周りの友達から評価されることは自信につながる。
- ・子供の学校での様子が伝わってきた。家でも、このカードに書かれていることについて話してみたい。
- ・親としても子供のいいところを見ていきたい。

▲自己肯定感アンケートの数値の変化があまり見られなかった。(自己肯定感アンケートは7項目あり、4段階で回答) レジリエンスを高めるための取組を継続して行っていく必要がある。

主な項目	7月	12月
自分にはいい所がある	3. 4 4	3. 4 9
みんなと同じくらい大切な人間だと思う	3. 3 4	3. 3 2
みんなの役に立っている	3. 1 0	3. 0 9

指定校番号	31002	学級活動	○	児童会活動	学校行事	別紙様式2
-------	-------	------	---	-------	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立廿日市小学校	校長	北川 千幸	生徒指導主事	瀬尾 啓子
-----	-------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『委員会のいじめ防止の取組』

**取組における育てたい資質・能力**

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「思考力・表現力」	3	「主体性」	2	「自己有用感」	1

**取組のねらい**

委員会活動で、「いじめ問題」について児童が主体的に考え、全校に「いじめ防止」を呼びかけることにより、自己有用感を高める。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『主体性・自己有用感の向上』
----------	---------------------------

●5月・12月・2月を全校で「いじめ防止」に取り組む月間として生活目標に設定。  
5月・2月「友だちを大切にしよう」  
12月「いじめをなくそう」

●主な取組を生活委員会(5月)・児童委員会(12月)・放送委員会(2月)に委ね、児童朝会等、全校に呼びかける機会を設定。  
【例：12/3 児童委員会による「いじめ防止」の呼びかけ】  
(体育館でのステージ発表)

(1)いじめにつながる2つの場面を劇にして、みんなならどうしますか?と問いかけた。  
①友達から他の友達の悪口を聞いた時  
②遊びに誘われたが、最初に遊ぶ約束をした他の友達から一緒にダメと言われた時

(2)「死ぬ」「ばか」などのギザギザ言葉を自分が言われたらどんな気持ちになりますか?と投げかけた。→全校児童で唱和

(3)最後に、次のことを呼びかけた。  
①学校教育目標の「しっかり考える」「思いやる」「やりきる」ことができれば良い方法が見つかること。  
②困った時は、友達や家族、先生などに相談すればよいこと。

●発表をした委員会児童を称賛し、生徒指導便りで取組を紹介し保護者にも啓発。

・5月・12月は、廿日市市での取組と合わせている。(5/8「命の大切さについて考える日」、12月「廿日市市いじめ防止対策推進月間」)

・できるだけ多くの児童に、「いじめ防止」の取組を主体的に考える機会をつくる。

・発表内容(みんなに考えてもらいたいこと)や発表形式(ステージ、放送)など、児童の意見や思いを尊重し、成功に向け職員が支援する。



・朝会を見た児童の感想や発表した児童の感想も掲載。

**取組の成果と課題**

- 委員会では、積極的に意見を出すなど、児童の主体的な活動の場面が多く見られた。いじめ問題について児童自ら真剣に考え、達成感をもつことができた。
- 全員、児童朝会に真剣に参加し、中には自己を振り返り、その後、実際に友達に謝っている児童もいた。
- 他の取組とも合わせ、児童の自己有用感が高まった。(1学期89%→2学期末91%)
- 児童の主体的な活動を推進するには時間を要する。業務改善も念頭においた取組の工夫が必要である。

指定校番号	31003	学級活動	○	児童会活動	学校行事	別紙様式2
-------	-------	------	---	-------	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立平良小学校	校長	谷本 直子	生徒指導主事	中本 智和
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『児童が主役になって取り組む委員会活動で自己有用感を育てる』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「課題発見・解決力」	1	「主体性」	3	「自己有用感」	2

取組のねらい

各委員会の児童に「学校全体をよりよくしよう」と思えるような取組の場を設定することで、児童の主体性や課題発見・解決力を育みたい。また、その取組を児童同士で評価し合いながら自己有用感を高めたい。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『児童のアイデアで学校の課題を解決』
----------	-------------------------------

<p><b>生活委員会</b></p> <p>学校全体がピカピカになるように取組を行った。</p> 	<p>きれいに掃除ができるように「コの字ぶき」や掃除ロボットの整頓の仕方など、ポイントを押さえた動画を撮影し、それを各学年に見せながら呼びかけた。生活委員会の児童が掃除の様子を見て回り、評価も行った。</p>
<p><b>児童運営委員会</b></p> <p>「挨拶がんばり週間」「あいさつライン」の取組を企画し、実行した。</p> 	<p>「挨拶がんばり週間」の取組では、委員会の児童が、事前に各学年に挨拶のポイントを伝えた。2週間の期間を設け、登校時に校門に立ち、挨拶のお手本を見せた。また、挨拶が素晴らしい児童を見付け、全校朝会でその児童を表彰した。「あいさつライン」の取組では、教室の入口にテープでラインを作り、そこを跨ぐ時には、必ず挨拶をしようと全校に呼びかけ、意識させた。</p>
<p><b>保健委員会</b></p> <p>朝会で「ゲームと睡眠の時間に気を付けること」について全校に呼びかけ、チャレンジアウトメディア週間で頑張った学級を表彰した。</p> 	<p>児童にゲーム時間などのアンケート調査を行い、実態を把握した。その上で、長時間ゲームをすることが、成長している自分の脳や体に良くないという科学的根拠を図書資料から調べ、分かりやすく全校朝会で発表した。また校内に児童が作った啓発ポスターを掲示した。</p>

取組の成果（○）と課題（●）

- 児童アンケート「みんなの生活をよりよくするため、進んで行動しています。」の肯定的評価が昨年度85%だったのに対し、今年度89%であり、積極的に生活をよりよくしようと考え、行動する児童が増えた。
- 積極的にアイデアを出したり、工夫しようとしたりする児童の様子を見てみると、「自分の力が学校のために役立っている」という満足感を味わっている様子が見られた。
- 各委員会の活動に対する感謝の思いやメッセージを各学年からもらい、掲示した。温かい言葉のメッセージをもらい、児童の委員会活動へのモチベーションがさらに高まっていたようだった。
- どの委員会の児童も休憩時間を使いながら活動することが多く、行事が重なった時などは負担になるところがあった。

指定校番号	31006	学級活動	○	児童会活動	学校行事	別紙様式2
-------	-------	------	---	-------	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中南小学校	校長	中坊 京子	生徒指導主事	岡本 美紀
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『主体性を育む児童会活動～小中合同挨拶運動を通して』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成	社会参画	自己実現
「コミュニケーション能力」 2	「主体性」 1	「自己理解」 3

取組のねらい

本中学校区では、小学校6年間中学3年間の9年間で高い志をもった児童生徒の育成をめざしている。ゴールイメージとして、自分の将来への希望や自分の理想とする姿(志)について、自分の言葉で語り、その実現に向けて努力する姿を描いている。本中学校区に共通する課題は、言葉で表現する力が弱いことと主体性に欠けることである。そのために、小学校執行部・中学校生徒会が主体となり、小中合同挨拶運動の計画を立て、児童・生徒発信の挨拶運動を展開することで、進んで挨拶をしようとする態度を育てると共に児童・生徒の主体性を育てていきたい。

取組の具体的内容

- 1 新旧執行部で思いをつなぐ。(H31. 1～3月)
  - ・昨年度の執行部から出ていた意見「挨拶が十分にできていないのではないか。」
  - 「小中合同挨拶運動を行っていくことが必要だ。」など
  - ・上記の意見を受け止め、新執行部として取り組んでいく。
- 2 第1回児童生徒会議開催 (R 1. 7月ーくすのきプラザ)
 

[出席者] 本校執行部, 中央小執行部, 緑ヶ丘中生徒会

[内容]

  - ・昨年度の児童・生徒の思いを受け継ぎ、気持ちの良い挨拶を地域に広げるために「小中合同挨拶運動」を行うことを決定。
  - ・運動の詳細(目的・実施日・時間・内容)について話し合う。
- 3 執行部より本校全児童に小中合同挨拶運動の目的と計画を知らせる。(R 1. 9月)
  - ・本校独自の執行部宣言「こんな南小にしたい」に挨拶の項目を入れる。
- 4 「小中合同挨拶運動」実施
 

[目的]

  - ・中学校区全体で、気持ちの良い挨拶を行う。
  - ・本校, 中央小の児童と緑中の生徒が協力して挨拶運動を行う。

[実施日]

①9月17日②10月17日③11月18日(7:40～7:55)

[場所](校区同時開催)

  - ・本校北門, プール門(本校執行部, 緑中5名)
  - ・緑中(緑中5名), 中央小(小学校執行部, 緑中5名)
- 5 本校執行部で定期的の実施
  - ・小中合同挨拶運動後も、定期的に挨拶運動を実施することで、気持ちの良い挨拶を地域に広げる。
- 6 今年度を振り返り「小中合同挨拶運動」の意見を集約し、来年度へ引き継ぐ。

取組の創意工夫  
『つなぐ広げる高める』

- 『思いをつなぐ①』
- ・平成30年度の意見を令和元年度へ
  - ・小学校執行部と中学校生徒会
  - ・小学校, 中学校と地域をつなぎたいという思い。
- 『話し合いで中学校区をつなぐ②』
- ・話し合いを通して、挨拶運動に対する思いや実施方法のイメージの違いについて互いに歩み寄り, より良い「小中合同挨拶運動」の内容を決定。
  - ・児童生徒の主体の話し合いになるよう教員は、極力口を出さない。
- 『本校児童と中学校区をつなぐ③』
- ・目的を知らせることで、運動を楽しみにする気持ちを持たせた。
- 『運動でつなぐ④』
- ・事前に中学校区で共通の挨拶レベル1～5を決めておく。
  - ・レベル5の児童生徒には「挨拶キラキラカード」を渡す。
  - ・地域の「あいさつ運動」や本校職員の「登校指導」と実施日をそろえ, 全体で運動を盛り上げる。
- 『挨拶運動を広げる』
- ・カードをもらった児童生徒を後日表彰する。(挨拶名人としてみんなをリードしていく。)
  - ・地域の「あいさつ運動」や職員の「登校指導」と同日に行うことで, 地域・職員・生徒・児童に気持ちの良い挨拶の輪を広げる。
- 『挨拶運動や地域とのつながりの質を高める』
- ・執行部を中心に広げる。
  - ・見守り隊から挨拶カードを渡す。
  - ・次年度へ引き継ぐことで, 質を高めていく。

取組の成果と課題

- 運動の中心を担った執行部児童からは、「計画から実施・振り返りと忙しかったけれど、楽しかった。できるなら中学校でも生徒会に入り運動を広げていきたい。」等の意見が出るなど全員が運動にやりがいを感じていた。
- 「小中合同挨拶運動」の取組を通じ、執行部児童の主体性・積極性が高まり、11月「パブリックデー」における地域懇談会(出席者:地域の方, 保護者, 6年児童, 教員)のパネラーとして、もっと地域に挨拶を広げていきたいという思いを伝えた。地域の方からは、「大人こそ実は挨拶に対して消極的な部分がある。」という意見や、児童からは、「高学年になると恥ずかしさが出てくる。」という意見も出た。本音での話し合いを通じ、地域全体で挨拶をしていこうという空気を生み出すことができた。
- 保護者対象学校評価アンケート挨拶指導の項目を比較すると、7月の93.7%から12月の94.3%へと肯定的評価が増加していた。
- 本校児童生活向上アンケート「学校・家庭・地域で気持ちのよい挨拶や返事をしています。」の肯定的回答は、7月95.1%から12月94.8%と0.3%下がったものの高水準を維持できた。
- △挨拶運動は一定の効果をあげたが、校内や地域で「いつでも」「どこでも」「誰にでも」という挨拶できる児童は多いとはいえないので、今回のような児童主体の取組を継続していく。
- △保護者からの肯定的評価は94.8%だったが、内訳「そう思う」が全体の44.9%と半数をきっていたので、具体的にどんな挨拶をめざしているのかを小学校として地域や保護者の方に理解していただけるように伝えていく必要がある。



令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	海田町立海田東小学校	校長	石川 和明	生徒指導主事	吉岡 朋美
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『「あいさつ運動」の取組について』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	3	「主体性・積極性」	1	「自己理解」	2

取組のねらい

学校の友だちや先生、家族、自分とかかわりのある地域の方に進んで気持ちのよいあいさつをすることを通して、思いやりをもち、自分や友だちのよさを考える児童の育成をめざす。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『美しいあいさつ』
----------	----------------------

【あいさつ運動の取組】

- 朝の登校時間帯にあいさつ運動を行う。
- 月・金曜日は児童会、水曜日は担当学年の児童が正門と南門に分かれて、登校する児童にあいさつをする。
- 各学年でアイデアを出し合い、工夫して取り組む。



【あいさつがんばろうカードの取組】

- あいさつのレベルごとに得点を決めて、自分のあいさつを振り返る。
- 各自がカードに点数を記録し、学級ごとに集計する。
- 結果を放送で紹介したり校内に掲示したりした。

レベル	あいさつ	ポイント
レベル1	相手に聞こえる声で	10点
レベル2	相手に聞こえる声で 自分から	20点
レベル3	相手の目を見て 自分から	30点
レベル4	立ち止まって 自分から	40点
レベル5	立ち止まって 会釈をしながら 自分から	50点

【あいさつ木(き)ら木(き)らの取組】

- あいさつ運動等の取組を踏まえて、「立ち止まって自分から笑顔で」あいさつする児童を生徒指導部の教員が認定した。
- 認定者の名前を、「あいさつ木ら木ら」の木に貼って校内に掲示したり放送で全校で紹介したりした。



・あいさつを、5段階のレベルで設定し、各教室に掲示した。

- 1：相手に聞こえる声で
- 2：相手に聞こえる声で 自分から
- 3：相手の目を見て 自分から
- 4：立ち止まって 自分から
- 5：立ち止まって 会釈をしながら 自分から



レベル5の「美しいあいさつ」が自分からできるように、一年間かけて取り組んだ。

取組の成果と課題

一年間を通してあいさつ運動を続けることで、児童のあいさつへの意識は高まった。児童アンケートでは、89%の児童があいさつができていると答えている。しかし、校内でのあいさつが、地域へ広がっていない。恥ずかしがらずに、保護者や地域の方へも自分からあいさつする児童をめざしていきたい。

指定校番号	31008	学級活動	○	児童会活動	学校行事	別紙様式2
-------	-------	------	---	-------	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	海田町立海田南小学校	校長	重森 栄理	生徒指導主事	宇多 弘典
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『あいさつ日本一の南っ子』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	3	「主体性・積極性」	2	「自己理解・自らの自信」	1

取組のねらい

挨拶運動の取組を通して、挨拶をする習慣を身に付けると共に積極性・主体性・自己表現する力を身に付ける。

取組の具体的内容

- ① 週3回の教室巡り挨拶運動  
朝の会が始まる前に児童会執行部が分担して、全ての教室を回り挨拶をしていく取組。  
◎次の3点の目標が達成できたクラスにはシールを配る取組。  
・素早く立つ・相手の顔を見る・大きな声以上。3点を目標にして挨拶をする。
- ② 月1回の小中合同挨拶運動  
中学校の生徒会と割り当てられた学年の児童が、正門と東門に分かれて、朝登校してくる児童に挨拶をする取組。
- ③ 月1回のはなみずき道路(通学路)での挨拶運動  
児童会執行部が、はなみずき道路に立ち、朝登校してくる児童に挨拶をする取組。
- ④ (10月)あいさつ標語決定  
「あいさつは ひまわりのように 笑顔でね」  
全校児童が標語を応募して、代表委員会で標語を決定した取組。  
◎全校児童全員が応募するように取り組んだこと。
- ⑤ (11月)1万人プロジェクト挨拶運動 2万3千461人達成  
地域の方・家族など校外の人達に挨拶をする取組(土日を含む7日間)  
◎(前半の3日間)途中経過を全校朝会で知らせた取組。  
◎(4月・9月・1月の挨拶の生活目標に関わって)  
教師による挨拶の挨拶運動  
◎教師が実施したひまわりカード運動の途中経過や結果を児童会執行部が知らせる取組。

取組の創意工夫

- ① 『3つの目標』を考えたことと『シール配り』は児童の意欲を高めることができた。
- ② ③は例年通り。
- ④ 『全員があいさつ標語』を考えることにより、挨拶の意識を高めることができた。
- ◎『途中経過を知らせたこと』で、さらなる挨拶の意欲向上を図ることができた。



取組の成果と課題

「先輩たちが築いた伝統を受け継ぎつつ、自分らしさを出して、南小をよりよくしていこう。」を目標にして取り組んだ。  
○挨拶についての児童アンケートの肯定的評価は、89.6%だった。様々な取組が児童の意欲を高めた。  
○教室巡り・あいさつ標語・1万人プロジェクト挨拶等の伝統行事をより意欲的にするためにサポートしたことが、児童のあいさつの意欲を高めた。  
●児童会活動として、新企画を立ち上げることができなかったこと。児童が主体的に活動できるように、一年間で1つは新しい企画を立ち上げるよう仕組むことが必要である。

指定校番号	31009	学級活動	○	児童会活動	学校行事	別紙様式2
-------	-------	------	---	-------	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立愛郷小学校	校長	新本 信之	生徒指導主事	佐々木 祐司
-----	-------------	----	-------	--------	--------

取組事例名 『児童会委員会の主体的な活動』

取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
協調性	2	課題発見・解決	1	自己肯定感	3

取組のねらい

○児童の主体的な活動の場としての児童会委員会活動を通して、学校の課題に自ら気づき、課題を解決していくための方法や手段を考え、課題解決活動を通して、実践意欲を育成する。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『最初の一步』
----------	--------------------

<p>○今年度4月に郷野小学校、可愛小学校が統合し、愛郷小学校が開校した。新しい学校の1年目の学校行事や取組のテーマを児童会で考え、「最初の一步」を共通の柱として様々な委員会活動に取り組んでいった。</p> <p>○取組の具体的内容</p> <p>①下駄箱の靴そろえ 児童会の執行部がはきものそろえ強化週間(学期に1回)を設け、1日3回(朝、大休憩後、昼休憩後)各学年の下駄箱をチェックした。学年全員のはきものがそろっていた場合、玄関に設置した掲示にシールを児童会が貼っていった。特に優秀な学年には、賞状を渡すことで評価を取り入れていった。</p> <p>②トイレのスリッパそろえ 児童会の環境委員会がスリッパそろえの強化週間を設け、1日3回(朝、大休憩後、給食前)男女それぞれのスリッパをチェックした。その日の結果を校内放送で一斉下校時に報告していった。3学期の全校朝会で環境委員会から、「はきもののきもち」というテーマで全校に発表した。</p>	<p>○新設校の伝統を1年目から全校児童や先生と一緒に考えながら創造していくということが、児童の活動をより主体的なものにしていった。</p> <p>○指導者が日常的な学校の課題を全校に伝える中で、委員会活動として取り組めるようにしていった。</p> <p>○玄関前にはきものそろえやスリッパそろえの状況を分かりやすく掲示していった。</p> <p>○全校朝会や一斉下校時に肯定的な評価を児童会執行部からも行っていった。</p>
--	---

取組の成果と課題


○成果  
開校1年目から学校の伝統を創造していこうとする児童会活動になった。児童の生活アンケートの中から、「きまりを守ろう」とする児童は88.3%となっている。「課題解決」に関する項目では、80.3%となっている。「自分から進んで活動する」という項目では、85.3%となっている。  
このような結果から、解決方法を考え、友だちと一緒に協力して課題解決をしていこうとする資質・能力の育成は、一定の成果をおさめている。

●課題  
児童会活動と合わせて、生徒指導主事等を中心に、「なぜはきものをそろえるのか。」「はきものがそろうとどのような学校になるのか。」を全校に伝えていった。今後も、もっと分かりやすく丁寧な指導方法を工夫しながら取組を進めていく。また、児童会役員等と指導者の意見交流の時間を工夫しながら設定し、来年度に向けてより主体的な活動ができるようにしていく。

指定校番号	31011	学級活動	○	児童会活動	学校行事	別紙様式2
-------	-------	------	---	-------	------	-------

## 令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	北広島町立壬生小学校	校長	板倉 寿恵美	生徒指導主事	岡田 克朗
-----	------------	----	--------	--------	-------

取組事例名		『いじめ撲滅運動』			
取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	2	「協働する力」	3	「課題発見・解決力」	1
取組のねらい					
<p>① 主体的に行動する力（課題発見・解決力）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童が、自分たちの学校からいじめや、友達を傷つけることをなくしていくための方法を考え、自分たちの考えを実行していくことを通して、いじめをはじめとする人権侵害を自らなくしていこうとする態度を養う。</li> <li>* 設定課題 いじめをなくすために自分たちで何ができるか。</li> </ul> <p>② コミュニケーション能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別異なる学年の児童と積極的に関わる機会を設け、ともに活動したりする体験を通して、表現力やコミュニケーション能力を育成する。</li> </ul> <p>③ 協働する力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめを生まないためにどんなことができるか考え、全校で実践していくことを通して、仲間と協働して活動する力を養う。</li> </ul>					
取組の具体的内容			取組の創意工夫		
<p>① いじめ撲滅宣言に係る取組</p> <p>児童会企画委員会が、「いじめ撲滅宣言」を作成する。この作成を機に児童自らが、一人一人が大切にされる学校づくりのためにできる行動について具体的に提案する。提案後は、各学級で定期的に行動の様子をふりかえり、年度末の児童総会で報告する。</p> <p>② 取組の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○9月～10月初旬 定例の委員会の時間や休憩時間を活用し、児童会企画委員会で「いじめ撲滅宣言」作成に向けての計画を立てる。その際、6年生にもしっかりと、取組の意図や内容を知らせていくことを確認した。</li> <li>○10月・11月 各学級に取組について周知し、学級での取組を進め、児童会企画委員会が各学級の作品を回収し、各学年の宣言と全校の宣言を決定する。</li> <li>○12月 児童総会で決定した「いじめ撲滅宣言」を発表する。 宣言の意味や、行動についても具体的に児童が説明する。 決定した今年度のいじめ撲滅宣言は「やめようよ 言える勇気を守ろうね」であった。</li> </ul>			<p>『自分たちでいじめをなくす』</p> <p>『全員が参加する』</p> <p>『6年生がリーダーに』</p> <p>『一人一人を大切に』</p> <p>『目的の確認』</p> <p>『全員で行動に』</p> <p>『自分たちの宣言』</p> 		
取組の成果と課題					
<p>○取組の意義や目的を丁寧に考えさせたり、この他の取組との関連をもたせたりすることで、少しずつ児童が自分たちで課題を見つけ、主体的に解決しようとする意欲をもってきている。</p> <p>○時間はかかったが、企画委員会については、全校に丁寧に伝える態度が見られるようになった。</p> <p>●企画委員会が中心になって活動してしまった。他の委員会の活動とも関連付けていけば、高学年全体の成長をさらに促すことができたので、今後は、取組の幅を広げていく。</p> <p>●時間の確保が難しいが、児童の個々の考えをさらに生かして取り組む必要がある。</p>					



令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立田野浦小学校	校長	神田 秀浩	生徒指導主事	東 英治
-----	------------	----	-------	--------	------

**取組事例名** 『あいさつ三原一』

取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「協調性・柔軟性」	3	「主体性・積極性」	1	「使命感・高い志」	2

**取組のねらい**

具体的なあいさつの仕方について示し、評価することで、自分から進んでその場に応じたあいさつができる児童を育成する。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『児童会の主体的活動』
----------	------------------------

昨年度、校区内の小・中学校連携を行い、児童・生徒の実態について情報交換した。そして課題を協議する中で共通して取り組む目標を考え「小・中スタンダード」を作成した。



【小学校・中学校共通の掲示物】

その場に応じたあいさつができる児童の育成に向け、全校朝会で、児童会から「あいさつの仕方やモデル」を示し、小・中スタンダードに掲げている「さきに」「だれにでも」「なんどでも」に合わせ、「会釈」をするあいさつの仕方を紹介した。

1月は「あいさつ名人」を決める際に、地域やPTA役員の方々からも投票していただいた。

1月末で83名のあいさつ名人が選ばれ、表彰状を渡すとともに名札にリボンをつけ「あいさつ名人」の自覚を持たせる意欲づけを行っている。



児童会が全校朝会で紹介した内容を掲示し、あいさつが習慣化するように努めた。また、登校時に地域の方々やPTA役員の方々と共に「あいさつ運動」を行った。

また、毎週火曜日の下校時に児童会が、「さようなら」「明日も元気で会いましょう」などの「あいさつ運動」を行っている。



【あいさつの仕方を職員室前に掲示】



【あいさつ運動】

**取組の成果と課題**

- ・「あいさつ名人」を目指している児童が増えている。
- ・地域の方やPTA役員の方など外部の方からの肯定的な評価を、あいさつ向上に生かすことができた。
- ・その場に応じたあいさつや会釈など、さらに評価していく。
- ・「あいさつ名人」がよいモデルになるよう、活躍する場を設けていく。

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」


学校名	尾道市立栗原小学校	校長	早間 貴之	生徒指導主事	正本 武士
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『児童の生活満足感を上げる生徒指導』

取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「認め、高め合う力」	1	「考え・表現する力」	2	「本気でやり抜く力」	3

**取組のねらい**

学級交流・異学年交流を通して、児童が主体的に関わる中で、積極的な生徒指導の取組を行っていく。その取組を通して、自他の良さに気づき、認め合い、学び合うことのできる児童の育成を目指す。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『生活満足感向上』
<p><b>I 構成的グループエンカウンター・アイスブレイクの実施</b></p> <p>月に1回、構成的グループエンカウンターやアイスブレイクを学級で行った。児童の実態に応じてその時々の課題に応じた内容に変更しながら行うようにした。</p> <p><b>II 異学年交流（たてわり班活動）</b></p> <p>社会性の基礎を培うため、異学年交流（たてわり班）による活動を実施している。主として①掃除、②遊び、③給食の3点である。活動は全て、6年生が中心となって企画・運営を行っている。6年生は縦割り掃除の分担や掃除指導、振り返りに至るまで最高学年としての姿を児童に示している。たてわり班遊びも6年生が計画し、全体が楽しむことができるように考え、運営している。たてわり班給食も学年に応じて自分の役割があり、高学年を中心として運営を行っている。そのため、「あんな6年生（高学年）になりたい」という憧れを児童はもつようになっている。また、低学年の児童に優しく、丁寧に説明やお世話をすることで、「自分から働きかけができた」「誰かの役に立てた」と児童は感じている。お世話された側も自然に感謝の気持ちを抱くようになり、人と関わる喜びを感じられるようになってきている。</p>	<p>○ASESSの結果をもとに、SCを招聘して児童の生活満足感を上げるための取組に関する校内研修を行った。</p> <p>①たてわり集会（月1～2回） ②交流給食（学期に2回） ③たてわり班給食（年1回） ④たてわり班遊び（毎月） ⑤たてわり班掃除（毎日） ⑥たてわり6送会（年1回）</p> 

**取組の成果と課題**

	3年平均	4年平均	5年平均	6年平均	
生活満足感	53	50.7	53.7	57.3	<p>○ASESSの各学年の平均値は、高くなってきている。友人サポートや向社会スキルも平均値よりもかなり高くなってきている。</p> <p>●6年生がかなり主体的に活動をしたが、活動の企画準備に時間がかかり、休憩時間がしっかりと取ることができない時期ができてしまった。今後、総合的な学習の時間や学級活動の時間に行っていくことができるように配慮する必要がある。</p>
教師サポート	64.7	59.3	58.3	66.3	
友人サポート	60.0	55.7	56.3	61.3	
向社会スキル	59	54	57.7	59.7	
非侵害的關係	64.7	59.3	59.3	66.3	
学習的適応	58	51	54	54	

【11月 ASESS の結果】

指定校番号	31014	学級活動	○	児童会活動	学校行事	別紙様式2
-------	-------	------	---	-------	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立高須小学校	校長	梶原 弘志	生徒指導主事	高橋 直輝
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『ハートフルウィーク』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
集団向上力	1	社会貢献力	3	自己指導力	2

取組のねらい

○児童会役員が中心となり、「ハートフルウィーク」を設定し、「いじめゼロ」の学校づくりに取り組むことを通して、全校でいじめを許さない意識を高める。また、「ハートフルウィーク」での取組を通して、自己指導力、集団向上力を高める。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『児童主体』
----------	-------------------

○児童会役員が「ハートフルウィーク」の取組内容を話し合い、「笑顔の虹」を設定する。

○代表委員会で取組方法を周知し、各学級で取組目標を設定する。

○全校朝会で、児童会役員が「ハートフルウィーク」での取組やねらい、「いじめゼロ」の学校づくりを目指すことを説明する。

○「笑顔の虹」…ハート型の用紙を用意し、うれしかったことや心があたたかくなったことを記入する。記入したものを虹の絵が書いてある台紙に貼っていく。

○各クラスで設定した取組目標は、全児童が見えるところに掲示する。



○昼の放送時間に毎日、児童会役員が「〇年〇組のハートに〇〇と書いてあるのを見ました。それを見て私もうれしい気持ちになりました。」等、各クラスのハートに書いてあることを発表する。

○「ハートフルウィーク」設定1週間後の全校朝会で、2クラスの「笑顔の虹」を紹介する。



取組の成果と課題

- 児童が大変意欲的に取り組み、当初1週間で行う予定だったが、2週間となった。
- 児童会役員が主体となって取組を進めたことで、全児童の「いじめゼロ」に対する意識が高まった。
- 肯定的なことを多く集め、児童会役員が全校児童に発表することで、学校・学級があたたかい雰囲気になり、笑顔が増えた。
- 昨年10件だったいじめ事案が7件に、4件だった暴力行為事案が2件に減少している。(1月末時点)
- 学級間で取組に温度差があった。この反省を活かし、次回は全校児童の取組にしたい。
- 事後の取組に課題がある。振り返りを充実し、「ハートフルウィーク」後の生活にも活かしていきたい。



令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

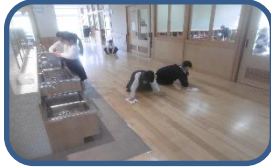


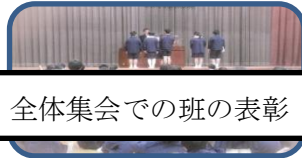



学校名	尾道市立久保小学校	校長	村上 みどり	生徒指導主事	内田 哲雄
-----	-----------	----	--------	--------	-------

取組事例名		『あいさつ週間』																			
取組における育てたい資質・能力																					
人間関係形成		社会参画		自己実現																	
共感的な人間関係の形成	1	協調性	3	自己肯定感の育成	2																
取組のねらい																					
全児童が相手意識を持って学校生活を送ることができるようになるために、協力して諸問題を解決しようとする共感的な人間関係を育成する。																					
取組の具体的内容			取組の創意工夫 『意識付け』																		
<p><b>あいさつ週間</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎週月・金曜日（7時45分～8時）、児童会役員（6年3名、5年2名）が校門に立ち、あいさつ運動を行っている。</li> <li>毎月第2週にあいさつ週間を行う。帰りの会で、友達にあいさつができたか児童に挙手させて人数を確認する。</li> </ul>  <p>児童玄関の掲示版</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>健康観察時に、ソーシャルスキルトレーニングを行うことで、あいさつすることの気持ちよさを味わうとともに、友達と関わることのよこびを実感できるようにする。 (体験による意識付け)</li> <li>児童玄関の掲示版にある集計結果を確認することで、あいさつすることに関心を持つことができるようにする。 (視覚的な意識付け)</li> </ul>																		
取組の成果と課題																					
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教室内での友達同士のあいさつが見られるようになってきた。</li> <li>登下校時、自分からあいさつする児童が増えてきた。</li> <li>地域の方から、「あいさつをする小学生が増えた。」という言葉をいただいた。</li> <li>あいさつを通して、友達と関わることにより、友達同士のトラブルが少なくなってきた。</li> </ul> <p style="text-align: center;">あいさつをした児童集計結果（あいさつ週間）</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全体平均 (%)</td> <td>96.6</td> <td>97.1</td> <td>96.1</td> <td>98.3</td> <td>95.5</td> <td>94.4</td> <td>94.9</td> </tr> </tbody> </table>						月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	全体平均 (%)	96.6	97.1	96.1	98.3	95.5	94.4	94.9
月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月														
全体平均 (%)	96.6	97.1	96.1	98.3	95.5	94.4	94.9														
<p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「誰にでもあいさつができる」というところまでには至っていない。</li> <li>「立ち止まって」「相手の目を見て」「相手に伝わる声で」ができる児童が増えていくような取組を考えていく必要がある。</li> </ul>																					



令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立向島中央小学校	校長	本藤 展康	生徒指導主事	大塚 裕信
-----	-------------	----	-------	--------	-------

取組事例名		『面白い学校～思いやりを育てる～』			
取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	3	「主体性・積極性」	2	「自己理解・共感力」	1
取組のねらい					
異学年による縦割り班の清掃活動や他学年のよいところを紹介する活動を通して、人と人のつながりを大切にする共感的な人間関係形成力を育てる。					
取組の具体的内容			取組の創意工夫 『つながり』		
<p>【縦割り班による掃除】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1～6年生を32班に分け、13～14人の縦割り班をつくる。</li> <li>2か月ごとに掃除場所を変更し、担当職員が掃除指導にあたる。</li> </ul>  <p>【ピカピカクリーン活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2か月ごと、4日間の掃除時間をピカピカクリーン活動週間とする。</li> <li>「無言で・隅々まで」掃除ができているかどうか、振り返りの視点に沿って教師が評価を行い、よく頑張っている班にはシールを渡す。</li> </ul>  <p>【キラリカード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎月、他の学年のよかったことをクラスで話し合い、キラリカードに書き、児童集会で学級委員が発表する。</li> </ul> 			<ul style="list-style-type: none"> <li>6年生がリーダーとなり、高学年が低学年に掃除の仕方を教える。</li> <li>掃除の終わりにリーダーは班のメンバーを集め、掃除の反省をする。</li> <li>よくできていた班（1位から3位）を全校集会で表彰する。</li> <li>玄関に表を掲示し、見える化を図る。</li> </ul>  <p>全体集会での表彰</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学年や個人のよいところを認め合い、他学年とのつながりを深める。</li> </ul>  		
 <p>1年1組 運動会で6年生の行進がカッコよかったです。</p>					
取組の成果と課題					
<p>○成果としては、異学年で遊ぶ姿を多く見るようになった。また、「ピカピカクリーン活動」や「キラリカード」の「見える化」によって、掃除や行動への意識付けができた。</p> <p>児童自己評価：無言で隅々まで掃除に取り組んでいる。7月 75.1% → 12月 75.7%</p> <p>○課題として、児童自己評価では、5年生の意識の高まりが見られたが、6年生はリーダーとして厳しい評価をしていた。掃除場所によって、徹底しきれていないところがあり、適切な範囲を随時検討し充実感があるものにできるようにしていく。また、掃除時間以外の縦割り活動を仕組むことで、より一層つながりを深めていく必要がある。</p>					

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立三次小学校	校長	中田 弘幸	生徒指導主事	吉羽 芳晴
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『あんたが大賞』

取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「相互理解」	2	「主体性・積極性」	3	「自己肯定感の向上」	1

**取組のねらい**

児童会執行部が中心となり、全校児童の望ましい姿を紹介したり、掲示したりすることを通して、全校児童の意欲を高めるとともに、自己指導能力を高める。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『やってみたいをやってみよう』
----------	----------------------------

**【本校の課題】**

- 自己肯定感が低く、友達に対して否定的な言葉をかけることが多い。
- 規範的な行動が指導しても定着しにくい。

↓

**【仮説】**

望ましい行動等を取り上げ、児童に周知することができれば、児童相互で自分たちに対する肯定的評価の機会を増やすことができ、児童の自己肯定感も高まるのではないかと考えました。

↓

**【児童会取組】**  
『あんたが大賞』

- 児童会が、校内での児童の良い姿をカメラで撮影する。
- 撮影した写真から、表彰状を作成する。
- 完成した表彰状を校内に掲示する。





**【昨年度からの改善点】**

- 昨年度、教師主体の取組だったが、本年度は児童会主体の取組へと移行する。
- 児童会がカメラをもって、全校集会や学校行事、日常の学校生活の中で、児童の良い姿を撮影する。

教職員：児童が中心となって、活動に取り組んでもらいたい

↓

教職員：児童が主体的に動くためにどうすればよいだろうか？

↓

教職員：児童自身が良い姿を写真でとるのはどうだろうか？  
「やってみよう」

児童：みんなのあいさつのしかたを向上させるために写真を撮ろう

↓

児童：ほかの姿も撮影したい

↓

児童：みんなの良い姿をどんどん撮影しよう  
「やってみよう」

**取組の成果と課題**

- 児童会が主体となって取り組むことで、児童会が意欲をもって取り組むことができた。自分たちで良い姿を撮影するという活動が、全校に意識してほしい具体的な姿をイメージしやすくなり、全校への呼びかけもより具体的になった。
  - 児童相互の肯定的な評価をしている姿はいくらか見られた。
  - 児童会が積極的に写真を撮影するも、思うような写真がなかなかうまく撮れないことがある。写真撮影の練習が必要。
  - 児童主体にする際に、どこまでを児童に任せるかが明確にできておらず、児童は悩んだり滞ったりすることがあった。また、児童会の中でも取組に対して積極的な児童と消極的な児童がおり、積極的な児童に負担になっている場面もあった。児童会全体で分担を明確にし、一部の児童に負担が偏ることのないように、バランスを考えた計画が必要だった。
  - 他の児童会行事もあるため、常時の活動としては、負担が大きい。期間を決めて取り組むなど改善策が必要である。
  - 写真を撮ってから、賞状作成の際に、教職員との連携が遅れ、せっかく撮った写真の掲示が遅れた。
- 【次年度に向けて】**
- ・本年度の取組が児童の自己肯定感の向上につながったか、アンケートを実施し、調査する。
  - ・取組の流れを児童・教師が具体的に決めて活動に取り組む。
  - ・期間を決めて、「どんな姿を全校に知ってほしいか」を決めて撮影する。その後、全校へ周知する。
  - ・撮影から表彰までを見通し、計画的に行う。
  - ・より多くの児童を表彰する。

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立十日市小学校	校長	坂田 邦彦	生徒指導主事	沖村 祐樹
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『児童主体の児童会活動』

**取組における育てたい資質・能力**

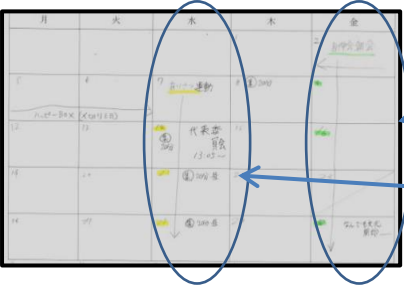
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「協調性」	2	「主体性・積極性」	1	「自らの自信」	3

**取組のねらい**

- 学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立てて役割を分担し、協力して運営することに自主的・実践的に取り組む態度を育てる。
- より良い学校にしていくために、児童が自分達の力で学校生活の課題を話し合い、合意形成を図り実践できるようにする。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『主体性』
----------	------------------


**【自伸会執行部の取組】**  
 ○活動計画表の作成  
 →委員会活動日に、毎月の予定を書き込んだ。



**【例】**  
 毎週金曜日は全校朝会  
 ↓  
 水曜日の休憩時間に集まって打ち合わせ

- ・1か月ごとの取組内容が見える化し、見通しを持って活動できるようにした。
- ・全校朝会や代表委員会がある際、「何日前までに」「どんなことをしておけばよいか」を児童主体で話し合う場を設けた。

○毎月の自伸会目標達成に向けた取組  
 →自分達で決めた目標を学校全体でやり切るための取組を行った。  
 例：1月の自伸会目標…「静かにそうじをしよう」



「おしずかにカード」を持って掃除時間の見回りを行った。  
 ↓  
執行部も声を出さない

- ・自伸会執行部が掲げた公約を果たすためには、どんな取組をすればよいのか考えた。
- ・児童主体とはいうものの、全て児童に丸投げするのではなく、常に教師が活動のねらいを確認しながら道筋を示した。

**取組の成果と課題**

- 自伸会執行部全員で話し合う場を多く設けたことで、合意形成を図って取組を進めることができた。
- 毎月の自伸会目標の達成率を上げることができた。 7月…79% → 1月…82%
- 教師が介入し過ぎる場面があり、教師主導で取組を進めてしまうことがあった。

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立幸千中学校	校長	藤井 護	生徒指導主事	伊藤 直也
-----	-----------	----	------	--------	-------

**取組事例名** 話し合い活動を通して ～『みんなにとって居心地の良い学校とは?』～

**取組における育てたい資質・能力**

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	1	「主体性・協働的」	3	「課題解決能力」	2

**取組のねらい**

生徒主体の話し合い活動を通して「居心地の良い学校」について考える。また、生徒会執行部と教職員のプロジェクトチームを結成し、会議や研修を行い、次年度に向けた取組を企画する。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『生徒主体』
----------	-------------------

<p><b>【STEP①】～話し合おう～</b> 『あなたにとって居心地の良い空間とは?』をテーマに話し合い活動を行う。(1時間)</p>  	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合い活動の前にアイスブレイクを行い、お互いが意見を言いやすい環境をつくった。また、「自分や他人の意見を否定しない」などのルールを決めた。</li> </ul>
<p><b>【STEP②】～深めよう～</b> 『みんなにとって居心地の良い学校とは?』をテーマにし、学級活動や学年活動を通して深める。(2時間)</p>  	<ul style="list-style-type: none"> <li>「居心地が良い」とはどのようなことかを、STEP①では自分について、STEP②では集団について、段階を踏んで考えた。</li> </ul>
<p><b>【STEP③】～共有しよう～</b> STEP②で深めた意見を体育館で交流する。(1時間)</p>  	<ul style="list-style-type: none"> <li>STEP③では、生徒会長がファシリテーターとなり、進行、問題提起、まとめを行った。また、“話し合う”ことの目的についても全体で考えた。</li> </ul>
<p><b>【STEP④】～プロジェクト会議～</b> STEP③で出した意見をもとに、生徒会執行部や職員研修で協議し次年度に向けた取組を企画する。</p>  	<ul style="list-style-type: none"> <li>STEP④では、生徒の意見を元に、取組の具体を協議した。</li> </ul>


**取組の成果と課題**

- 生徒アンケートにおいて「毎日安心して学校に来ている」と肯定的に回答した生徒の割合が、85%（2学期末）であった。
- 生徒主体の話し合い活動を行うことで、生徒会執行部の責任感が向上した。他の生徒たちも「自分たちで決める」「自分たちの学校」を意識することができた。
- 生徒の主体的な活動が見られ、その様子を教職員が積極的に交流できた。
- 生徒アンケートにおいて「自分の考えが認められている」と肯定的に回答した生徒の割合が、80%（2学期末）であった。今後は他者との関わりの中でお互いを評価し合い、認め合う場を充実させていく。
- 取組事例(話し合い)を活用した授業実践が不十分である。



令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立培遠中学校	校長	村上 啓二	生徒指導主事	酒井 盛浩
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名		『生徒のセルフエスティームを高める』			
取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	2	「自己決定能力」	3	「自己理解・自らの自信」	1
取組のねらい					
<p>本校は、「夢を志にチャレンジ」を学校教育目標として、「たくましく生きる力を身に付け、自らの進路を切り拓き、地域に貢献できる生徒を育てる」ことをめざし、主体的な生徒の育成を図っている。その基盤として、「セルフエスティーム（自尊心）の向上」「自己指導能力の育成」「レジリエンス（心の回復力）の育成」に取り組んでいる。特にセルフエスティームの向上は、生徒が学校生活を送る上では最も重要なものであると自覚し、取り組みを進めている。</p>					
取組の具体的内容			取組の創意工夫 『ほめる』		
<p>プログラム「秘密の友だち」（1年生5月の学活で実施） 仲間に賞賛メッセージを贈る活動</p> <p>① 上手なほめ方を理解し、友達の個性をほめる練習をする。</p>   <p>② 友だちの良いところを見つけて、そのことを相手に伝える。伝え方は、生徒の背中に手形を書いた紙を貼り、相手の良い面を手形の指に5人がそれぞれ書き込んでいく。</p> <p>③ 自分の手形に書かれたほめ言葉を読んだり、他の生徒と交流したりすることで、お互いに良いところを認め合うことの大切さを実感する。</p>			<p>『ほめ方のスキルを身につける』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学して学級での生活に慣れ、周りの生徒のマイナス面も見えてくる時期に行う。</li> <li>・「自分が短所であると思っていることも、見方を変えれば長所となる。」ということを道徳の授業と関連付ける。</li> </ul> <p>『お互いの存在を認め合う』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒はプログラム実施の前に1人3人までほめる友だちを決め、3日間観察する。</li> <li>・教師は生徒の様子を見ながら助言し、ほめる相手が偏らないようにする。</li> </ul>		
取組の成果と課題					
<p>○ 生徒アンケートの自己肯定感に係る項目「自分には良いところがある」の肯定的回答が6月、1月のアンケートとも79%であった。</p> <p>○ 「自分の良いところを友達が見つけてくれるのは、こんなにも嬉しいことかと感じた。」「これからも友達の良いところを見つけて伝えていきたい。」などの感想が挙げられ、学校生活の中でお互いをほめたり、認めたりする発言が増えた。</p> <p>● 取組を日々の授業の中で生かせなかったことである。今後は、日々の各教科、学活や道徳などの授業の中で、お互いの考えを尊重するような活動を意図的に取り入れていく。</p>					

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	竹原市立竹原中学校	校長	東 秀樹	生徒指導主事	今宮 洋平
-----	-----------	----	------	--------	-------

取組事例名	『討議の時間』
-------	---------

取組における育てたい資質・能力					
-----------------	--	--	--	--	--

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	1	「共感的人間関係」	2	「主体性」	3

取組のねらい					
--------	--	--	--	--	--

- 他者の意見を「聴く」こと、自分の意見を「表現する」ことでコミュニケーション能力を向上させる。
- 自分の考えを他者に分かりやすく伝えるために、根拠や理由を明確にして表現する力を高める。
- クラスの中で生徒同士をつなげる。(他者や相手の意見を尊重する。)
- クラスで1つの議題を共有することで、クラスの一体感を醸成する。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『生徒主体』
----------	-------------------

- 朝の学活の時間を使って行う。(年間8回)
  - 討議の議題は、生徒会から、または生徒からアンケートを募り、時期や実態に応じて生徒会や代表委員、学年教員で議題を決定する。
  - 【留意点】
  - ①基本的に、3、4人グループで討議し、一人一役もたせる。(司会、記録、相槌、発表)
  - ②グループごとに席をくっつけること。
  - ③教師は全体を見て、コーディネートする。(教師が話をしすぎない。討議が盛り上がらない、スタートしないグループを手助けする)。
  - ④発表の時は、図や表を使うなどして根拠や理由をはっきりともたせた発表の工夫をする。
- ☆学校目標でもある「自他を大切に」にして生徒も教師もやってよかったと思える討議の時間にする。

- 討議の約束4箇条
  - ・相手を大切にしよう
  - ・積極的に考え参加(発言)する
  - ・理由を添えて発言する
  - ・マイナス発言はしない
- 討議の報告会掲示板

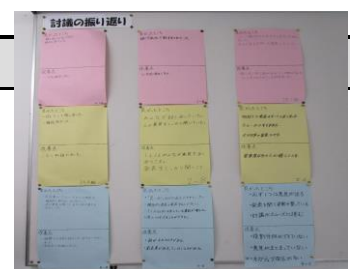


<過去の議題>

- ・自分を大切に、相手を大切にすることはどういうことか。
- ・運動会で全員が気持ちよく終わるには・・・。
- ・竹原中学校の文化祭の「成功」とは？

取組の成果と課題
----------

- ・型・流れを生徒に示すことでうまくいった。
- ・話が脱線するグループもあった。
- ・10分では意見をまとめて、発表までは難しい。
- ・普段、会話がないうちでも必然的に会話が生まれる。



指定校番号	31022	学級活動	○	生徒会活動	学校行事	別紙様式2
-------	-------	------	---	-------	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立東朋中学校	校長	小島 範雄	生徒指導主事	山手 寄喜宏
-----	-----------	----	-------	--------	--------

**取組事例名** 『自立貢献の生徒の育成』を目指した生徒会活動

**取組における育てたい資質・能力**

<b>人間関係形成</b>		<b>社会参画</b>		<b>自己実現</b>	
「コミュニケーション能力」	2	「主体性・チャレンジ精神」	1	「課題発見・解決能力」	3

**取組のねらい**

- 生徒が考え、計画を立て、実行し、それぞれの課題の克服に向けて努力できる力を養う。
- 仲間と一緒に活動することを通して、お互いに良さを認め合い、仲間への思いやりや感謝の心を育む。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『自治』
<p>○ 生徒会代議委員会を軸にした集団づくりを行った。生徒会のスローガン『ALL UP～全力で挑戦し飛躍する～』をもとに、生徒会執行部が学級代表である代議委員を集め、お互いの学級の様子を交流、学校生活の目標を設定した。学級内では、午後の学活で、1日の目標に対し、仲間がどのように取り組めたか、困っていることについて、どのように解決するかを話し合った。</p>  <p>○ 行事では、生徒会執行部だけでなく、学年と学級のリーダーが中心となって応援合戦や歌声練習などの練習計画を立て、声を出し、仲間を尊重した取組を行った。ボランティア委員会は、ボランティア活動の計画を立て、友人や学級や部活動で自主的に参加できる活動の場をつくった。</p> <p>○ すべての生徒が安心して安全に学べるように、生徒指導規程や学校生活について、全校生徒から意見を集め、生徒会執行部会や、職員研修などを通して、生活のきまりなどを見直した。</p>	<p>○ 話し合っ設定した目標を、生徒も教員も共通認識を持って生活ができるように、生徒会の掲示物担当が見える場所に掲示した。また、目標だけでなく、生徒の成果物や学びの様子を掲示した。</p>   <p>○ 生徒会執行部だけでなく各行事でリーダー会を開き、行事などの取組の内容やきまりを、生徒が自分たちで考え、実行した。</p>   <p>○ 生徒会執行部が昨年度までの意見や高校・職業調べで得た情報を持ち寄り、生徒指導規程や学校生活の見直しについて話し合った。自治的な活動を推進するために、生徒総会で要望があったことを踏まえ、生徒会執行部が昇降口に意見箱を設置した。</p>

**取組の成果と課題**

○ 生徒の意見を生徒会執行部、各行事のリーダーがまとめ、表現活動、生活改善に向けた啓発活動、生徒指導規程の見直し等の活動を行い、生徒が納得して学校生活を送ることができるよう取り組んだ。その結果、約9割の生徒が安心して学び、学校生活で達成感や喜びを感じることができている。その他、学級や班で話し合う場ができたことで、授業においても、生徒がお互いの考えを自然と出し合い、認め合うことができた。

1月 生徒アンケートの質問	肯定的回答 (%)
安心して学習や生活ができます。	92.4
学校生活の中で、達成感や喜びを感じることがあります	91.8
行事や生徒会活動はみんなでいっしょに頑張るよう努力しています。	88.9
身だしなみのきまりを守っています。	97.7

● 体育大会や文化祭などの行事のリーダー会では、表現の工夫や仲間の迷惑行為に対する対応についての話題が多く、教室や集団の中に入りにくい仲間への配慮や、人間関係のトラブルについての話し合いは不十分であった



指定校番号	31025	学級活動	○	生徒会活動	学校行事	別紙様式2
-------	-------	------	---	-------	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立磯松中学校	校長	竹原 弘長	生徒指導主事	占部 智之
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『生徒会活動の充実』

**取組における育てたい資質・能力**

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	2	「協働する力」	1	「主体性」	3

**取組のねらい**

- 異年齢集団での活動を通して、リーダーシップの育成を図るとともに、コミュニケーション能力や協働する力を育む。
- 学校と地域との関係を深め、生徒が主体的に行動する態度を育む。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『人との交流』
----------	--------------------

- 新入生入学説明会
  - ・入学前の新入生に向けて行う学校説明会の司会，進行を生徒会執行部が行う。
- 生徒会委員会
  - ・委員会ごとに生徒会執行部と連携し，目標を立てる。実践する。点検，反省する。対策を練る。
- 生徒総会
  - ・全校生徒で学校生活をよりよくするために生徒会スローガンの具体的な取組，課題を考える。
- 環境ボランティア活動
  - ・中学校区の2小学校と連携し，地域の清掃を行う。
  - ・PTAと生徒が連携し中学校内の環境整備，トイレ掃除を行う。
- 磯松花咲かせ隊
  - ・部活動単位でプランターに花を植え，地域の事業所に配る。
- 朝のあいさつ運動
  - ・部活動単位で正門で朝のあいさつ運動を行う。
- 新入生部活動体験
  - ・生徒会執行部が司会，進行を行い，小学校6年生を対象とした部活動体験活動を行う。
- 地域交流・門松づくり，ぜんざいづくり
  - ・地域の方に協力していただき，門松づくりとぜんざいづくりを行い地域との交流を図る。

異年齢集団で活動することにより，それぞれが置かれた状況や立場により，多様な経験ができる。

例えば，リーダーとして集団を引っ張る場面，集団の一員として協働する場面等，他者とコミュニケーションをとる中で認められ，自己有用感を高めることができ，主体性を育むことができる。



**取組の成果と課題**

生徒会執行部の生徒は，学校のリーダーとしての自覚と責任を持つことができた。それぞれの取組が目に見える形で残ることにより，自己存在感を高めることができ，学校評価アンケートにおける肯定的評価につながったと思われる。

【学校評価アンケート（12月）より】

項目	肯定的評価
部活動に意欲的に参加している。	92.0%
体育大会，文化祭などの行事に主体的に取り組んでいる。	90.9%
校内緑化活動，美化活動，ボランティア活動に積極的に取り組んでいる。	68.1%



指定校番号	31026	学級活動	○	生徒会活動	学校行事	別紙様式2
-------	-------	------	---	-------	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立廿日市中学校	校長	枝廣 泰知	生徒指導主事	濱田 真司
-----	-------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『掃除』

**取組における育てたい資質・能力**

人間関係形成		社会参画		自己実現	
課題発見解決力	2	主体性・積極性	1	高い志・使命感	3

**取組のねらい**

毎日取り組む掃除を充実させることで生徒の精神的な成長を促す。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『教員主導から生徒主導へ』
----------	--------------------------

- 掃除を効率よく集中して行えるよう今年度より時程を変更し、掃除の時間を15分から10分とした。
- 1学期は生徒指導主事の講話等、教員の指導と実態把握を中心に取り組み、2学期の「場を清める」というスローガンのもと、生徒会執行部と美化委員会を中心に生徒の自治的活動にシフトしていった。
- 生徒会執行部が作成した掃除の意識啓発と掃除方法の再確認を目的とした動画を生徒朝会において全校生徒で視聴した。
- 昨年度から継続している美化委員会による掃除の評価の集計等は継続して行った。

- 全職員にアンケートを行い、時程の変更を検討した。前年度の3学期末に試験的に時程を変更し、再度検討することで教職員の共通認識へとつながった。
- 動画作成にあたっては、生徒会執行部とのイメージのすり合わせや、目的を細かに確認して作業を進めた。



**取組の成果と課題**



- 1学期アンケート 「掃除時間、無言清掃をしている」 肯定的回答 85.4%
- 2学期アンケート 「掃除時間、無言清掃をしている」 肯定的回答 89.0%
- 成果
  - ・掃除時間を短くすることで生徒、そして教員も負担感なく掃除やその指導に取り組むことができた。業務改善の視点からも成果があった。
  - ・生徒の出演する動画は全校生徒が真剣に見ることができた。掃除に取り組む意識を変える良いきっかけとなり、生徒会執行部の自覚を促すことができた。
- 課題
  - ・肯定的な評価では良くなっているが4段階評価の3が多いため、今後の活動を継続し、より高い目標をもたせながら生徒会執行部への働きかけを行わなければならない。
  - ・客観的に見てよく取り組むようになった生徒の自己有用感については微増もしくは微減といった状態であるため、肯定的な評価を教員が意識する必要がある。



指定校番号	31029	学級活動	○	生徒会活動	学校行事	別紙様式2
-------	-------	------	---	-------	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中緑ヶ丘中学校	校長	谷川清二	生徒指導主事	河本春彦
-----	--------------	----	------	--------	------

取組事例名					
『地域教育と学校支援の在り方』					
取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「対人関係能力の育成」	3	「地域教育での繋がり」	1	「未然防止と早期対応」	2
取組のねらい					
1 小中合同あいさつ運動の取組を通して、地域教育の充実と異年齢交流でのつながりを持ち、中学校生活での不安解消へつなげる。 2 校区内小中連携の実施により、不登校及び不登校傾向児童生徒や、課題のある児童生徒への早期の発見、早期対応へつなげる。 3 小中で系統的に人間関係づくりトレーニングを実施することで、対人関係能力の育成を行う。					
取組の具体的内容			取組の創意工夫		
1 校区内小中合同あいさつ運動 児童生徒会が中心となり、校区内の小学校2校に出向き、正門を中心に合同でのあいさつ運動を実施した。 ①あいさつ運動校内ポスター作成 ②全校朝会や校内放送、生徒委員会での周知 ③「あいさつレベル」5段階でカードを渡し、カードをもらった児童生徒を各校内で表彰する。 			※「地域教育と社会性の育成」 「異年齢交流」 「中学校生活への不安解消」 「中1ギャップの解消」 		
2 校区内小中連携 ①毎週金曜日に校区内小学校2校と中学校1校の3校を順番に回り、小学校は5年生、6年生を中心に、中学校は1年生を中心に授業参観を行い、授業参観後協議をもつ。 ②メンバーは、中学校：生徒指導主事、教育相談担当、特別支援コーディネーター、SC、SSW、SSと各小学校は生徒指導主事、町教育委員会で多角的に児童生徒を見て協議し、9年間を見据えて未然の防止と早期の対応へつなげていく。			※「校区内小中連携」 「積極的生徒指導」 「未然の防止」 「早期発見・早期対応」 「日常的な学校支援体制づくり」		
3 対人関係能力の育成 ①人間関係づくりトレーニングを年間5時間実施。 ②全学年同じ時間、一斉に実施する。 ③取組資料は福岡教育大学教授 小泉令三先生の「社会性と情動の学習 SEL8S」を教材に取組を始めて5年目を迎える。 ④暴力行為減少 ⑤不登校の減少 ⑥学習への取組向上			※「対人関係能力の育成」 「社会性と情動の育成」		
取組の成果と課題					
※学校評価アンケート結果より 1 「自ら進んで挨拶をしている」生徒の割合：昨年度 91.6%→今年度 2 学期末 91.7% 2 「不登校生徒数」の割合：昨年度 3.1%→今年度 2 学期末 2.9% 3 「学校が楽しいと感じている」生徒の割合：昨年度 91.3%→今年度 2 学期末 91.6% 「暴力行為」の件数：昨年 7 件→今年度 2 学期末 1 件 「思いが伝えられる人がいる」と感じる生徒の割合：昨年度 95.1%→今年度 2 学期末 92.1%					

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	熊野町立熊野中学校	校長	米谷 剛	生徒指導主事	平岡 健太郎
-----	-----------	----	------	--------	--------

取組事例名 『委員会活動の活性化』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成	社会参画	自己実現
「コミュニケーション能力」 2	「主体性」 1	「高い志」 3

取組のねらい

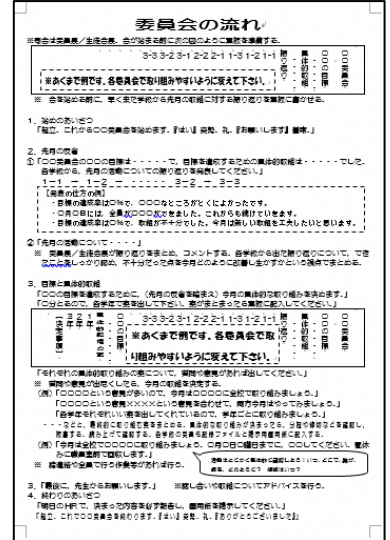
生徒一人一人が生徒会の一員として意識をもって活動できるよう、委員会活動を活性化する。委員会を月に1回もしくはそれ以上もつことにより、委員会活動を行う「場」をつくとともに、目標設定およびその達成のための具体的取組、活動に対する振り返りを行い、生徒全員の活動につなげる。

取組の具体的内容

- 学級ファイルの作成  
各学級・各委員会ごとに、記録用の紙ファイルを準備する。委員会に持参し、決定事項の記録をするとともに、取組に対する振り返りなども記録できるようにする。
- 委員会の流れのある程度の統一  
○ 委員長と担当教員とで、事前に打ち合わせ、「今月の目標」を決めておく。  
○ 委員会では、委員長から提案された「今月の目標」を達成するための「目標を達成するための具体的取組」を各学年で話し合い、決定する。全学年統一でもよいし、各学年別の取り組みでもよい。  
○ 次の委員会で取組に対する振り返りを行う。(翌月の「目標を達成するための具体的取組」も決定する。)  
以上の3点を統一した上で、各委員会でこれまでの活動を大切にしつつ、柔軟に活動する。学期ごとの目標設定を月ごとに決める。ただし、目標は学期ごとでも、具体的取組は月別に決める。また、具体的取組は学年ごとに決める。
- 生徒会新聞「Dreams come true.」の作成  
委員会の報告や執行部からのお知らせ等に活用する。

取組の創意工夫 『つなげる』

- 「今月の振り返り」を「翌月の目標」につなげる。  
→ファイルを活用することで「変化」も確認できる。
- 「委員会の取組」を「学級活動」につなげる。



- 生徒会の取組を全校生徒につなげる。(伝える、広げる)

取組の成果と課題

- 目標だけでなく具体的取組を設定したことから、生徒から生徒への声かけが効果的に行われた。
- 「目標設定と振り返り」を繰り返したことで、成果と課題を見つけられる生徒が増えた。
- 委員会ごとに担当の教員が異なるため、取組内容に差が出た。



指定校番号	31032	学級活動	○	生徒会活動	学校行事	別紙様式2
-------	-------	------	---	-------	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立吉田中学校	校長	松本貴文	生徒指導主事	桑田浩二
-----	-------------	----	------	--------	------

取組事例名 『2 weeks challenge』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
コミュニケーション能力	3	主体性	1	達成感・継続する力	2

取組のねらい

昨年度、「吉中学びの7か条」を掲げ、学級委員会を中心に挨拶コンクールに取り組んできた。今年度は、生徒会全ての委員会でコンクールを計画・実行することで生徒会執行部が主体となり、全校生徒による学校生活の改善・充実を図る。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『継続と発展』
----------	--------------------

本校には学級委員会・学習文化委員会・生活委員会・保体委員会・報道委員会の五つの委員会がある。その各委員会が2週間単位のコンクールを計画・実行し、最も熱心に取り組んだ学級を表彰する。

- ・授業挨拶コンクール（授業開始・終了時のあいさつの際の立っている姿勢，声の大きさ，礼の丁寧さを評価する。）
- ・オールA トールDAYコンクール（1日の全ての授業について評価し，オールA評価を目指す。）
- ・Tidyコンクール（部活動で着替えた際にバッグ，衣服，シューズが整理整頓できているか評価する。）



- ・ヘルメット in bike コンクール（自転車のヘルメットが籠に正しい向きで置いてあるか評価する。）
- ・朝食コンクール（朝，栄養素に関してバランスの良い朝食を摂ることができているか評価する。）
- ・川柳コンクール（学校生活を五・七・五で表現し，全校生徒が最も共感できる作品を選ぶ。）

昨年度，一つの委員会が2週間単位で行っていたコンクールを五つの委員会の持ち回りによるコンクールへと発展させた。



先輩たちが築いたものを継続し，自分たちの新たな視点を加えることで学校生活をより活性化させようと生徒会執行部の熟議により生まれた取組である。

取組の成果と課題

五つの委員会がそれぞれの活動の特性を踏まえた上で学校生活の課題を見つめ，取り組むことにより，様々な面において改善が見られた。また，2週間という期間が集中して取り組むのに適した期間であった。生徒アンケートにおいても「場に応じた挨拶ができています。」は97.0%，「部活動ではあいさつや整理整頓などマナーを意識して活動しています。」は96.3%と高い数値が表れている。課題はコンクール期間中と終了後の意識に差が生じてしまうので，意識を定着させることである。

指定校番号	31033	学級活動	○	生徒会活動	学校行事	別紙様式2
-------	-------	------	---	-------	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立第三中学校	校長	有木 浩城	生徒指導主事	高田 直也
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『三中チャレンジカップ』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	1	「課題発見・解決力」	2	「高い志・使命感」	3

取組のねらい

- (1) 年間を通して縦割り集団で活動を仕組み、互いに競い合い、認め合い、励まし合う中で自治的集団をつくる。
- (2) 生徒が目的意識を高め、様々な行事や授業、点検活動等に主体的に取り組むことができる。
- (3) ピア・サポート活動をとおして、課題解決する力をつけさせる。
- (4) 3年生を中心に企画・運営をしていく中で、公正に行動し、進んで規則を守り、互いに協力して責任を果たすなど、社会生活に必要な態度を養う。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『「しん」化』
----------	--------------------

昨年度に引き続き、年間を通して縦割りの集団で活動を仕組み、学校行事や委員会の点検活動を行った。また、月ごとの全校集会で取り組む活動の詳細や結果を生徒会から発表し、活動を得点化した。以下が取組内容である。

三中チャレンジカップ年間計画

実施時期	実施内容	担当する委員会 (教科)
4月	集団行動・校歌	保健体育科
5月	号令GP	生活委員会
6月	自主勉強ノートGP	生徒委員会
9月	運動会	保健体育科
10月	学習発表会(合唱) お弁当GP	生徒会執行部
11月	号令GP	生活委員会
2月	持久走GP	保健体育科

左記にもあるように、縦割りの集団で行う三中チャレンジカップは昨年度からの取組である。昨年度の3年生や生徒会執行部が熱心に取り組む、三中の魅力の1つとなった。この取組をより発展させていくために、今年度の生徒会テーマを『三中を劇的に「しん」化させる』に設定し、生徒一人ひとりが自分なりの「しん」化をして、さらに活気ある学校づくりをしていけるよう指導した。



取組の成果と課題

生徒が主体的に学校行事や委員会活動に取り組むことで、やりがいを感じたり自己肯定感の向上につながったりしている。今後は、生徒の実態に合わせて改善し、教職員全員で目的意識を共有してより効果的な活動にしていく必要がある。

指定校番号	31035	学級活動	○	生徒会活動	学校行事	別紙様式2
-------	-------	------	---	-------	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立本郷中学校	校長	大畑 文信	生徒指導主事	大西 康晃
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『生徒会を中心としたボランティア活動の充実』

**取組における育てたい資質・能力**

人間関係形成		社会参画		人間関係形成	
コミュニケーション能力	3	主体性	1	自らへの自信	2

**取組のねらい**

『自主的にやりきれるボランティア活動』

- ・生徒会執行部を中心として、日々校内で行える短時間ボランティア活動を実行する。
- ・グループを作り曜日ごと、または日にちを指定して活動する。
- ・ボランティア活動を通して、他者から評価され自己肯定感を育てる。
- ・ボランティア活動をやりきることで、充実感・達成感を得る。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『日々短時間で行える』
----------	------------------------

- ・朝掃除ボランティア
- ・挨拶ボランティア
- ・旗揚げボランティア
- ・フラワーボランティア
- ・献血ボランティア



- ・各学期はじめに、全校生徒に各ボランティア活動募集をする。
- ・献血ボランティアについては、日本赤十字社と連携し4月、8月12月の年3回実施。町内スーパー駐車場にて1日行う。
- ・献血ボランティアは、報道機関に取材依頼し、新聞・CATV等で活動報道をしていただく。
- ・学期ごとにボランティア活動を選ぶことができるので、様々な経験ができる。
- ・学校外でのボランティア活動の案内も行い、活動・参加の視野を広げる。

**取組の成果と課題**

取組の成果『参加者が認められ評価されることで次につながる』

- ・3学期実施の生活アンケートから
  - ①「何かのボランティア活動に参加した。又はこれから参加する。」肯定的評価78%
  - ②「誰かのために役立っていると感じるときがある。又は、将来、誰かの役に立つことができると思う。」肯定的評価89%
  - ③「自分には良いところがある。」肯定的評価85%
  - ④「努力すれば、たいいていのことはできると思う。」肯定的評価93%
- ・献血ボランティアは、報道機関等で取り上げられることにより、校外の方々に活動が知られ評価されることが増え、自己肯定感・充実感・達成感につながる。

取組の課題

- ・活動内容、様子の校内掲示等も積極的に行い、評価の場面を増やす。
- ・ボランティア活動をすることが当たり前の感覚になっている生徒が多数いるが、まったく参加しない生徒も固定化されている。
- ・参加申し込みだけになり継続することができない生徒も出始めている。

指定校番号	31039	学級活動	○	生徒会活動	学校行事	別紙様式2
-------	-------	------	---	-------	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立三次中学校	校長	迫田 隆範	生徒指導主事	平本 敏明
-----	-----------	----	-------	--------	-------

<b>取組事例名</b>		『ミニボランティア活動』			
<b>取組における育てたい資質・能力</b>					
<b>人間関係形成</b>		<b>社会参画</b>		<b>自己実現</b>	
「コミュニケーション能力」	3	「主体性・協調性」	1	「自己の良さ」	2
<b>取組のねらい</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒会自治活動（ミニボランティア活動）を通して、生徒自身が主体的に学校環境を創ることで達成感や生活意欲を高める。</li> <li>○ 学校の一員として、学校を大切にしたい気持ちを育てるとともに、自己有用感を高め、仲間との連帯感を強める。</li> <li>○ 仲間とコミュニケーションをとり、協力してボランティア活動を行うことができる。</li> </ul>					
<b>取組の具体的内容</b>			<b>取組の創意工夫</b> 『自覚・責任 自己有用感』		
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒会委員会（美化・ボランティア委員会）による計画・立案・運営</li> <li>○ 担当委員会による各クラスへの呼びかけ</li> <li>○ 当日の動き（放課後） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開会式 委員長挨拶 各グループでの作業内容の確認</li> <li>・ ミニボランティア活動実施 プランターの花苗の植替え、花壇の手入れ 等</li> <li>・ 閉会式</li> </ul> </li> <li>○ 担当委員会による振り返り</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員長が全校朝会で呼びかけ、その後、各クラスで担当委員が参加者を募ることで、担当委員としての自覚を持たせる。</li> <li>・ 生徒は、参加の有無や作業内容を自ら選ぶことで、自覚と責任につながっている。</li> <li>・ 当日の作業では委員をリーダーにグループでの活動を行っている。</li> </ul>		
<b>取組の成果と課題</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティア活動の活性化については、ミニボランティア活動を学期1回以上行っている。美化委員会を中心にプランターの花苗を植え替え、ボランティア委員会を中心に本校近くにあるものけミュージアムにプランターを設置した。みよし学園一斉ボランティアでの活動を含め、2学期末現在で（全校生徒143名中）延べ254名の生徒が参加した。</li> <li>・ 【学校生活アンケート（12月）より】</li> </ul>					
項目		生徒	保護者	教職員	
ボランティア活動に積極的に取り組んでいる		75.2%	62.4%	68.4%	
生徒会活動や学校行事に積極的に取り組んでいる		85.8%	83.8%	94.7%	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続的なボランティア活動の実施とともに、生徒の自己肯定感等を高めていくためにも「みよしふれあいパスポート（ボランティア手帳）」を活用していく。</li> <li>・ 一人一人の意識をさらに高める必要があり、今後は地域と連携し、校区内をフィールドとして地域単位でのボランティア活動に参加を促す。</li> </ul>					



指定校番号	31024	学級活動	生徒会活動	○	学校行事	別紙様式2
-------	-------	------	-------	---	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	大竹市立大竹中学校	校長	十亀琢磨	生徒指導主事	井手正典
-----	-----------	----	------	--------	------

取組事例名 『生命尊重の日』					
取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「企画・想像力」	3	「主体性・積極性」	2	「人としての思いやり」	1
取組のねらい					
昭和58年5月23日大竹中学校3年の男子生徒が部活動中、尊い命を失うという痛ましい事故が起こった。 ①取り返しのつかない、残念な悲しい事故が再び起こることのないようにする。 ②本校教職員や生徒一人一人が、「自分の命はもちろんのこと、他人の命も大切にしたい気持ちを持ち続けていこう」という思いを忘れない。 ③「生命を大切にしていこう」という意識を全校生徒はもちろん、保護者・教職員に育て向上していく。					
取組の具体的内容			取組の創意工夫 『「忘れない」から「動き出す」へ』		
彼の命日を「生命尊重の日」と設定し、ご冥福をお祈りするとともに、生命の尊さ、大切さを感じ、考える日としている。 生命尊重の日の講演の大きなテーマは、以下の3つ H12までは、隔年で当時の先生方の話を伺っていた。 <b>【病気】</b> H13, H15, H16, H17, H29, R01 <b>【事故】</b> H14, H22, H23, H24, H26, H27, H30 <b>【誕生】</b> H21, H25, H28 H21～1年生の道徳で生命尊重の日まつわりの話を取り扱うようになった。			H22～全校生徒のアイディアをまとめ、美術部の協力で作品を作成 H22 「生命尊重の日のアピール文」		
					
H28～生徒会提案で、生徒によるハートプロジェクトが始まり、クラスごとに、命に関わるテーマで話し合ったことを全校に発信するようになった。			H23 「THE BOND OF LIFE」 		
			H26 「いのちの記憶」 		
			H29 「いのち輝け」 		
取組の成果と課題					
学校評価アンケート「生命尊重の取組や道徳の授業等で命の大切さを学んでいる」の肯定的評価 R 1 後期 1年 96.9% 2年 94.2% 3年 97.2% 全体 96.2% R 1 前期 1年 99.0% 2年 90.5% 3年 98.1% 全体 96.2% H30 後期 1年 95.4% 2年 95.3% 3年 97.0% 全体 95.9% H30 前期 1年 96.6% 2年 98.2% 3年 97.0% 全体 97.3% ○肯定的評価95%以上という目標を毎年達成できている。 ●年度の途中で肯定的評価が下がっている生徒がいることが課題である。 ◎次年度には肯定的評価が100%になるような取組を生徒と共に考える。					

指定校番号	31027	学級活動	生徒会活動	○	学校行事	別紙様式2
-------	-------	------	-------	---	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立大野東中学校	校長	田浦 由紀夫	生徒指導主事	中次 伸彦
-----	-------------	----	--------	--------	-------

**取組事例名** 『生命尊重～いじめ撲滅に向けて～』

**取組における育てたい資質・能力**

人間関係形成		社会参画		自己実現	
コミュニケーション能力	2	課題発見・解決力	1	自己理解	3

**取組のねらい**

自他の生命を尊重する心を育むとともに、いじめのない学校、安心して生活のできる学校を目指して、一人一人ができることを考え、やるべきことを自覚し、実生活につなげる。また、一人一人がかけがえのない存在であることを理解し、仲間と協力して考えることで、いじめ撲滅を目指す。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『つなげる』
----------	-------------------

◇「命の大切さについて考える日」の集会  
命の大切さについて学び、嫌な思いや辛い思いをする生徒がいじめのない学校、いじめのない学校、落ち着いた生活のできる学校にするための意識を高める機会とした。生徒会による「いじめ撲滅宣言」や助産師を招き、「いのちの話」の講演を行った。

◇「平和」について考える生徒集会  
広島の中学生として被爆地「ヒロシマ」の歴史から、命の尊さ、「生きる」ということ、お互いの違いや異なる意見を認め合うことについて考える機会とした。生徒会による「平和メッセージ」や被爆体験伝承者の講話を行った。

◇「いじめ防止」について考える集会  
集会を通して、考え、気づき、決意したことを日常生活の中で活かすことができるよう取り組んだ。また、生徒全員が「一歩踏み出す勇気」を持って行動していくための機会とした。教員によるロールプレイから、どのような考えや言動が望ましいかをグループで考え、発表した。

今年度は、単発的な取組にならないよう、集会の前後に道徳の時間（内容項目D-(19)「生命の尊さ」を取り扱った内容）や学活（クラススローガンに対する自分の振り返り）を組み込むことで、より内容を深化させるとともに、生徒が日常生活へつなげられるよう工夫した。

また、自らの行動を振り返るだけでなく、グループで望ましい考えや言動を話し合うことで、価値の補充・深化・統合を図った。

扱いとしては学校行事となるが、企画・運営は生徒会が主体となって行い、より効果的な内容になるよう取り組んだ。



**取組の成果と課題**

今年度の暴力行為発生件数は1件（昨年度3件）、いじめ認知件数は8件（昨年度11件）であり、ともに減少した。特にいじめ認知においては、第2段階のいじめは発生しておらず、昨年度の2件から0件に減少した。また、学校生活・いじめアンケートにおいて、「学校が楽しい」と回答をした生徒が91%、「現在いじめを受けている」と回答した生徒は1%であった。少数ではあるが、人間関係等で悩んでいる生徒をどう支援していくかが課題となる。

指定校番号	31030	学級活動	生徒会活動	○	学校行事	別紙様式2
-------	-------	------	-------	---	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	海田町立海田中学校	校長	大田 稔	生徒指導主事	小田 一治
-----	-----------	----	------	--------	-------

<b>取組事例名</b>	『体育祭』
--------------	-------

<b>取組における育てたい資質・能力</b>					
------------------------	--	--	--	--	--

人間関係形成		社会参画		自己実現	
先輩と後輩の良好な関係	3	主体性・積極性・責任感	2	自己肯定感	1

<b>取組のねらい</b>					
---------------	--	--	--	--	--

体育祭に主体的に参加することによって、3年生は「リーダー学年としての意識」、2年生は「先輩として1年生に見せるべき姿」、1年生は「海田中生徒としてのあり方」を学ぶ場とする。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『リーダーと教員の連携』
----------	-------------------------

体育祭で行う入場行進, 集団演技などを3年生の団長や応援リーダーが中心になり, 1・2年生に指導した。また, 学年の競技に関しては各クラスのリーダーが中心となり, 学級の生徒をリードした。それぞれの練習の前後に教員とのミーティングを密に行い, より効果的な練習を行うことができた。また, 3年生は全体練習にかかわる道具の準備なども積極的に行った。



生徒に様々な取組を任せる上で演技の内容が全校生徒にとって難しすぎたり, 簡単すぎたりしないように保健体育科, 3学年の担任を中心にリーダーと連携を取り合った。その結果, 体育祭の各練習は生徒のやる気を引き出す, 非常に充実したものとなった。生徒の実態を把握した上での教員の生徒のかかわりによって, 生徒が上手く流れに乗り, 生徒, 教員ともに前向きに練習に取り組むことができた。

<b>取組の成果と課題</b>					
-----------------	--	--	--	--	--

全校生徒のアンケート「自分にはよいところがあります」の肯定的な評価が平成30年12月の77.0%, 令和元年12月では76.0%で高い数値を記録した。このことから, 生徒たちは自己肯定感を高めることができたのではないかと考えられる。また, 1・2年生の体育祭を終えての感想からも先輩の活動に対する感謝の声が多くあった。体育祭の取組によって生徒と教員が一体感を持つことができた雰囲気は体育祭後も続き, 文化祭での学級での取組に生かされた。






指定校番号	31034	学級活動	生徒会活動	<input type="radio"/> 学校行事	別紙様式2
-------	-------	------	-------	----------------------------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立宮浦中学校	校長	西田 光也	生徒指導主事	池田 義和
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名		『ふれあい奉仕活動』			
取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	1	「公共性」	2	「自己有用感」	3
取組のねらい					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者・地域の人との交流を通して、適切な挨拶や会話の仕方などの基本的な生活技術やコミュニケーション能力を身に付ける。</li> <li>・マナーやモラルなどの社会規範を身に付ける。</li> <li>・地域での人間関係の希薄さを払拭し、生徒の健全育成の環境を整える。</li> </ul>					
取組の具体的内容			取組の創意工夫 『表現活動』		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内居住の大人と共にゴミや空き缶拾い等の奉仕活動を行う。</li> <li>・生徒と保護者・地域の人2人1組を原則として、それぞれビニール袋をもって、空き缶等のゴミを収集する。</li> <li>・収集した物は集合場所近くのゴミステーションに置く。保護者・地域の方が持ち寄ったアルミ缶についてはリサイクル活動のため別にして、学校に持ち帰る。</li> <li>・活動範囲はそれぞれの集合場所を起点として居住区（地区）内の道路・溝などを中心に行う。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催にあたり、各地区の町内会長、自治会長、民生児童委員など、学校に関わりある方に案内やお礼の手紙などを生徒の代表が届けに行く。</li> <li>・地区会や当日の司会進行も生徒主体で運営する。</li> </ul>		
					
取組の成果と課題					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・この活動を契機として、ボランティア活動など、地域貢献に参加してみたいと回答する生徒が97%となり、その後も地域のボランティア活動に多くの生徒が主体的に参加している。</li> <li>・98.1%の生徒が、他人任せ・大人任せにせず積極的に活動できたと自己評価している。</li> <li>・取組が始まって15年くらいになるが、この始まった経緯の伝承や地域の方の参加率が課題。</li> </ul>					

指定校番号	31036	学級活動	生徒会活動	○	学校行事	別紙様式2
-------	-------	------	-------	---	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原中学校	校長	井上 一男	生徒指導主事	坂本 篤宏
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『高め合う仲間』

取組における育てたい資質・能力



人間関係形成		社会参画		自己実現	
人間関係形成能力	1	課題解決力	2	自信	3

取組のねらい

昨年度は、友達に対するからかいや暴言によるトラブルが多く、授業中の私語やエスケープがあるなど、全体的に落ち着かない状況だった。その結果、暴力行為が6件発生し、不登校生徒は11名いた。また、平成30年12月に実施した学校生活アンケートでは、「落ち着いた学校生活を送ることができています」という質問に対し、肯定的に回答した生徒が77.3%と他の質問に比べ低く、安心して学校生活を送れていない生徒がいる状況だった。

これらのことから、落ち着いて生活するためには、学校生活の基本となる「学級・学年集団」の絆を高めることが必要だと考えた。そのため、体育大会や文化祭などの学校行事を通して、リーダーの育成と生徒の主体的な活動を軸に、「学級集団づくり」の取組を行うことにした。

取組の具体的内容 取組の創意工夫 『学級集団づくり』

<p>【体育大会】 学級集団を活用し、体育大会リーダーを中心とした活動を行った。 ※競技、表現、応援合戦の練習では、①～⑤の流れを意識して、全学年で統一した指導を行った。</p> <p>○競技の部（学級対抗） 練習を重ねることで、上達が感じられる団体種目を多く取り入れた。（ムカデ競走・タイヤ奪い・大縄跳び・リレー）</p> <p>○表現種目（学年別） ・1年生⇒集団行動 ・2年生⇒ええじゃん ・3年生⇒ソーラン節 ・応援合戦（学年対抗） 体育の授業で学習した内容が表現できるように工夫した。</p> <p>【文化祭】 体育大会の練習と同じように、学級集団を活用し、合唱リーダーを中心とした活動を行った。 ※合唱練習では、体育大会の練習①～⑤の流れに加え、⑥の振り返りを意識し、友達の良さに気づかせる指導を行った。 ○合唱コンクール（学級対抗） ○全校合唱</p>	<p>【①目標設定】 【②練習計画の作成】 【③学級での練習】 【④リーダー会（課題発見）】 【⑤練習計画の見直し】</p>  <p>【⑥振り返り】</p> 
---	---

取組の成果と課題

【成果】  
学校生活アンケートの集団にかかわる質問項目全てにおいて、昨年度と比較し、肯定的な回答が増えた。リーダーの育成と生徒主体の取組を通して、学校生活の基本となる学級集団づくりをすすめたことが、アンケートの結果にあらわれたと考えている。

生徒アンケート（12月実施）	平成30年度	令和元年度	前年比
落ち着いた学校生活を送ることができています。	77.3%	83.4%	6.1%↑
栗原中学校には生徒が自主的・主体的に活躍する場があります。	78.3%	82.7%	4.4%↑
自分のクラスは楽しいです。	86.2%	88.1%	1.9%↑
日頃の活動や行事で主体的・協力的に行動ができています。	85.6%	87.4%	1.8%↑

学校の状況として、暴力行為と不登校生徒数は昨年度と比較し減少している。学級集団づくりを大切にすることで、生徒が安心して過ごせる学級になり、良好な人間関係が築けたことが理由として考えられる。

	平成30年度	令和元年度	前年比
暴力行為発生件数（件）	6	3	-3
いじめ認知件数（件）	1	2	+1
不登校生徒数（人）	11	6	-5

【課題】  
令和2年1月末現在で、暴力行為は3件、不登校生徒数は6名となっている。全ての生徒が安心して過ごせる学校になるために、生徒が相談しやすい体制を整え、いじめなどの問題行動の未然防止に努めることが必要だと考えている。また、保護者アンケートでは「栗原中学校は信頼できる」という質問に対し、肯定的に回答した保護者は74.3%と他の質問に比べ低かった。今後は、保護者との信頼関係を構築し、生徒と保護者から信頼される学校にしていきたいと考えている。



指定校番号	31037	学級活動	生徒会活動	○	学校行事	別紙様式2
-------	-------	------	-------	---	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立向東中学校	校長	吉用 和弘	生徒指導主事	奥田 庸介
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『体育大会』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「協働する力」	1	「主体性・積極性」	2	「論理的思考力」	3

取組のねらい

【目指す姿】

○ 競争や協働の経験を通して、健やかな体と豊かな心を育み、仲間と切磋琢磨しながら高め合う集団

【具体例】

○ リーダーの育成【学校・学年・学級】

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『傾聴と共感』
----------	--------------------

【リーダー会の実施】

本校は縦割集団で体育大会を実施する。縦割集団の良さを活かすためには、3年生や各学年リーダーが「ロールモデル」になることが必要である。その重要性などをリーダー会で明確に示す。また、練習計画や練習形態なども、全てリーダー会で決定する。リーダーが責任を持って取り組める組織体制が構築されている。



【カウンセリングマインドを活用した生徒との面談】

○ 体育大会の練習期間中に個人面談等を行っている。その中で、生徒の思い（うれしいことや悩み）を聞き、頑張っていることは誉める。特にリーダーについては、不安な気持ちなどを聞き、アドバイスも行っている。  
○ 気になる生徒については、教職員間でも情報共有を行うとともに、保護者連携を行っている。

取組の成果と課題

【アンケート結果（生徒の変容）】

①自分には良いところがあります。
【全国平均値 74.1% 広島県 78.1% (全国学力・学習状況調査 質問紙より)】
【4月実施】 第1学年 78% 第2学年 77% 第3学年 69%
【7月実施】 第1学年 95% 第2学年 86% 第3学年 81%
②先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますか。
【全国平均値 81.5% 広島県 82.5% (全国学力・学習状況調査 質問紙より)】
【4月実施】 第1学年 90% 第2学年 80% 第3学年 83%
【7月実施】 第1学年 95% 第2学年 91% 第3学年 96%

○ 来賓からも肯定的評価をいただき、生徒へも還元することにより、自己肯定感が高まった。

○ 生徒主体で行うことにより、達成感（感動）や充実感（自信）を得ることができている。

▼ 体育大会を通して育てた資質・能力を日々の生活でも更に活かしていく。（教職員の共通認識）

▼ 小中連携として何かできないか、という意見が多くでてきている。

指定校番号	31038	学級活動	生徒会活動	<input type="radio"/> 学校行事	別紙様式2
-------	-------	------	-------	----------------------------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立高西中学校	校長	利田 亨次	生徒指導主事	生田 泰之
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『自治的な活動による主体的な態度を通じた自己肯定感の育成』

**取組における育てたい資質・能力**

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「主体性・積極性」	1	「コミュニケーション能力」	3	「思考力・判断力・表現力」	2

**取組のねらい**

- 話し合い活動を核にして学校行事を充実させることで、生徒の主体的な態度を育成する。
- 生徒会を中心とした自発的・自治的活動を通して生徒の自己肯定感を高める。
- 地域貢献活動を通して、学校と保護者・地域とのつながりを深める。

取組の具体的内容	取組の創意工夫
----------	---------

<p>1 生徒主体の体育大会の取り組み</p> <p>各学年リーダーを中心とした体育大会に取り組んでいる。今年度はさらに生徒主体を育てる体育大会を目指し、生徒リーダーに各団のパフォーマンス、縦割り種目の毎時間の練習計画を立てさせた。その練習計画をもとに学級で確認し、生徒が合意形成した。</p> <p>2 生徒主体の鶴羽ヶ丘祭の取り組み</p> <p>実行委員会に教職員と生徒会会長と副会長の3名が参加し、生徒の意見を取り入れつつ実行委員会を重ねた。各学級においてどのような鶴羽ヶ丘祭にしたいかキーワードを出し合い合意形成を図った。</p> <p>3 地域と協働した地域清掃活動</p> <p>評議委員会において、地域のために何ができるのか意見を出し合ったり、事前に教員が町内会長等と連携したりした。その後、それぞれの地区の状況により、要望に沿った内容を実施することで、地域との絆を深めた。</p>	<p>『合意形成・意思決定』</p> <p>『主体性・積極性』</p> <p>『合意形成・意思決定』</p> <p>『判断力・表現力』</p> <p>『合意形成・意思決定』</p> <p>『郷土愛』</p>
---	---

**取組の成果と課題**

<成果>

- 1 体育大会の「生徒の自主性が生かせる体育大会になっていましたか」の肯定的評価が87%
- 2 文化祭の保護者アンケートの「生徒が主体的になっていましたか」の肯定的評価が90%以上
- 3 地域貢献活動を通して、学校と保護者・地域とのつながりを一層強めることができた。

<課題>

特別活動を基盤に、学力の向上にどのように取り組むか、年間計画の見直しを行う。その中で考えるプロセスの充実を図りながら教科等との往還の関係を整理していく。また、地域と連携・協働した取組をさらに発展させることができるよう、より多くの地域の方に参加していただけるように周知・広報していく。



指定校番号	31041	学級活動	生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事	別紙様式2
-------	-------	------	-------	-----------------------	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	庄原市立庄原中学校	校長	定宗 譲二	生徒指導主事	小田 昌滋
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『合唱祭』

**取組における育てたい資質・能力**

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「共感力」	1	「課題発見・解決力」	3	「自己肯定感」	2

**取組のねらい**

本校では、生徒の自己肯定感を高めるために、長年に渡り合唱祭を計画し開催している。生徒会執行部を中心に各委員会が行う準備や、各クラスでの合唱に向けての取組が、成功体験となり生徒の自己肯定感を向上させ、学校生活全体へのやる気に繋がると考えている。また、意欲の向上が問題行動や不登校の減少に繋がると期待している。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『異学年交流』
----------	--------------------

生徒会執行部が中心となり合唱祭に向けての準備を行っている。また、各委員会でも役割分担を行い準備するなど、生徒が主体となり合唱祭の運営が行えるよう取り組んでいる。各クラスでも、約1カ月前から指揮者、伴奏者、スピーチ、めくり作成、パートリーダーなど役割分担をして事前の取組を行っている。合唱祭当日に向けての練習では、各クラスのパートリーダーが中心となり練習の計画を考え、指示を出し練習を行っている。

合唱祭当日の表彰の際は、めくり賞やスピーチ賞、指揮者賞の発表があり、各クラスの担当者は入賞ができるよう様々な工夫をしている。表彰があることが、役割のある生徒の活動意欲の向上につながっている。

学年練習や縦割り練習の際には、お互いの良い点・改善点を「メッセージカード」に記入させ「見える化」を図っている。記入されたカードは各クラスに掲示するなどして、書いてある改善点などをその後の練習の参考にしている。また、肯定的なアドバイスは、生徒のやる気にも繋がっている。

これらの活動を通して、自己肯定感の高まりが見られた。今後の生活に活かせるよう、これから何を目標にどのようなことをがんばるかワークシートにまとめ、各自が記入したものは教室に掲示するなどして意識の継続を図った。

**取組の成果と課題**

合唱祭に向けての準備や合唱練習では、様々な課題を解決しながら合唱祭のステージに向けて、生徒会やクラス全員が一つになることができた。合唱祭当日の達成感は、これからの学級の大きな力になったと考えている。自分たちで、創意工夫を行い、仲間と共に同じ目標に向かう努力をしたことは大きな成果であった。また、特に1学年は、2・3学年の迫力を目のあたりにして自分たちも頑張ろうと目標がもてた。3学年は、1・2学年の模範になるよう意識し歌声だけでなく、ステージ上での態度も意識して取り組むことができた。



令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	府中市立府中学園	校長	池田 哲哉	生徒指導主事	上 刳 亨
-----	----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『府中学園人権週間』

**取組における育てたい資質・能力**

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「思考力・判断力・表現力」	3	「主体性・積極性」	1	「自己理解・自らへの自信」	2

**取組のねらい**

- ・他者や集団との関係の中で、自分の存在を価値あるものとして受け止めることができるようになる。
- ・他者への配慮が自然に態度や行動に現れてくるような人権感覚を育成する。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『自然なつながりを生む』
----------	-------------------------

- ・本年度の児童生徒会スローガンである「絆～支え合い、認め合い、笑い合う～」の実現を目指し、学園全体でできる取組を児童生徒会執行委員が話し合った。  
絆を深める → 人とつながる → 人を大切にす  
る → 人権の尊重 という結論になり、12月10日の世界人権の日に合わせた取組を行った。
- ・児童生徒会執行委員がステージ朝会で取組のねらいを伝えた。
- ・日常生活の中でクラスメイトから受けてうれしく感じた言葉や行動を紙に書いた。
- ・有志の児童生徒で学年ごとに学年の仲間が書いた紙を模造紙に貼り付け、掲示物を作成した。
- ・学園朝会で、仲間外れやいじめといったテーマで児童生徒会執行委員が劇を行い、日常の中にある人権意識の高揚を図った。
- ・全児童生徒が見ることのできる場所へ掲示した。
- ・その後、各学年エリアに掲示し、1週間ごとに様々な学年の掲示物を見ることができるようローテーションした。



児童生徒会による劇

- 『主体性の集大成』
- ・児童生徒会執行委員に児童生徒会スローガンを実現させるための取組を考える中で、学園全体で取り組める内容を考え、伝えるための方法として選んだ劇の内容も児童生徒が考えた。学年の掲示物も有志によって作成した。
- 『学年に応じた伝え方』
- ・1～4年生…人権という言葉を使用しない。
- ・5～7年生…人権という言葉の説明した。
- ・8・9年生…世界中の人権の取組に目を向けさせた。
- 『交流の場を生む』
- ・職員室前に掲示することで、児童生徒同士の交流だけではなく、職員との交流の時間も生まれた。

登校時に5年生の担任と児童が2年生の掲示物の前で意見交流



**取組の成果と課題**

- ・「人権」という言葉にこだわることなく仲間のよさや頑張り、感謝の言葉を伝えあえるような取組をステージや学年・学級単位で行い、温かな雰囲気が広がった。
- ・固定された学年ではなく、学校全体の取組として広げていく。

「キラリ」という言葉で表現

学園生活最後の文化祭 仲間を「キラリ」がらびたい

5年生

9年生

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」


学校名	広島県立河内高等学校	校長	栗田 正弘	生徒指導主事	川原 栄治
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『他者を認める姿勢を育むホームルーム活動の実践』

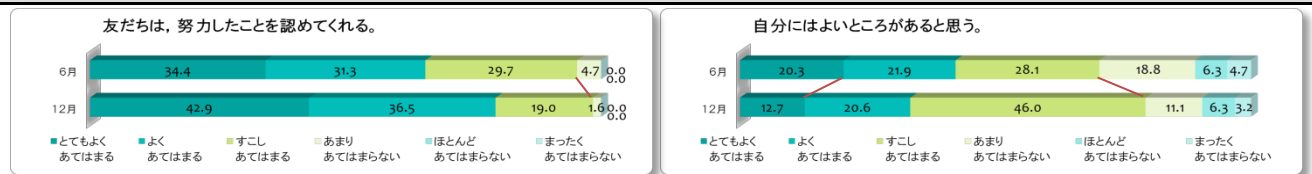
取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「他者理解・共感力」	2	「主体性・積極性」	3	「自己理解・表現力」	1

**取組のねらい**

撮影した写真を用いて、オリジナルCMづくりを行う。そのCM作品を通して、「家族」「いのち」への思いを共有する活動を行い、他者を認め、自他の個性の理解及び寛容する心を養う。

取組の具体的内容	取組の創意工夫
<p><b>1限目</b> *主に夏季休業中に撮影した写真を元に、CMづくりを行う。 (某生命保険会社のHPを利用)</p> <p><b>2限目</b> *作成したCMの自己評価を行う。*グループ内でCMを発表し、相互に評価する。*グループの代表作品を決める。 (グループ全員の写真を使って代表作品としてもよい。)</p> <p><b>3限目</b> *グループごとに、代表作品を紹介する。*各グループの作品について、それぞれのグループ内で話し合い、肯定的に評価する。*全ての活動について振り返る。*振り返りを共有する。</p>	<p><b>1限目</b> 『自己理解』『伝える』</p> <p><b>2限目 3限目</b> 『他者理解』『感じる』 『協働的な学び』『共感』『意欲』</p> 

**取組の成果と課題**



これは取組の前後に実施したアンケートの結果の一部である。どちらも取組を実施していない2・3学年に比べ、肯定的な回答をした生徒の増加が顕著であった。しかし、「自分には良いところがあると思う。」に対して「とてもよくあてはまる。」と回答した生徒は大きく減少している。これは内面的な成長に伴い、自己を評価する基準が厳しくなったためであると考えられる。来年度は、今年度の取組を継続的発展的に実施するとともに、生徒の主体的な活動を促し、また日々の授業中の学習活動を改善することによって、自己肯定感を高める取組を行いたい。

以下は全ての取組終了後の生徒の感想からの抜粋である。

「『伝えること』『感じること』はむずかしい。」「伝え方を考えないと伝わらない。」「自分の思いを客観的に見る必要があると思った。」「想像して理解しようとするのが大切。」「自分について改めて深く考えた。」「自分が思ったことをちゃんと伝えようと思った。」「みんなすごいと思った。」「いろんな人のことを想像して幸せな気持ちになれた。」「人それぞれの価値観があつていいなと思った。」「みんなルールを守っていて不快なものなかった。」「自分が見れないものを見れて感じられないものを感じることができた。」「しゃべったことのない人としゃべってみたい。」「人が思っていること、伝えたいと思っていることを正確に感じ取りたい。」 数値以上に取組の効果を感じることができると思われる。

校番	008	ホームルーム活動	○	生徒会活動	学校行事	別紙様式2
----	-----	----------	---	-------	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立三原東高等学校	校長	波多野 徹	生徒指導主事	多田 靖
-----	-------------	----	-------	--------	------

**取組事例名** 『特別活動における生徒の自己肯定感を高める取組』

**取組における育てたい資質・能力**

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	3	「主体性・積極性」	2	「自己肯定感・自己有用感」	1

**取組のねらい**

- (1) 特別活動を通して生徒の自己肯定感を高め、学校生活を意欲的に送る素地をつくる。
- (2) 生徒会活動を中心にして、生徒の主体性を醸成する。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『さらなる成長』
----------	---------------------

- (1) 「成長をふりかえるシート」  
学校行事（1学期：楠木祭(文化祭)、2学期：運動会）の際に、自分が「成長した」と思う割合を10段階で評価し、できた（できるようになった）ことを箇条書きでふりかえらせ、自分自身の成長に気付かせる機会を設けた。
- (2) 「生徒会通信」  
「成長をふりかえるシート」の集計結果をもとに、生徒会執行部が「生徒会通信」を発行することで、生徒自身で行事の成果をフィードバックした。
- (3) 「東高ルーブリック」（学校生活のルーブリック）  
11月に実施した縦割りLHRで、生徒自身が「時間を守る」「身だしなみ」「授業への取り組み」について、「学校生活で何ができるようになればよいか」を考え、グループごとにルーブリック表を作成した。その成果をもとに、執行部が「東高ルーブリック」としてまとめ、全校生徒に提案した。

- (1) 今年度の学校スローガン「さらなる成長」を活用して、生徒に1年間を通しての目標を意識させた。
- (2) 生徒どうしが刺激しあい、「やる気」をおこすことをねらい、生徒会執行部を中心に、生徒に任せる機会を設けた。



「東高ルーブリック」の提案

**取組の成果と課題**

- (1) 「成長をふりかえるシート」の集計結果は、楠木祭（6月）5.8、運動会（9月）6.3と、行事を重ねるごとに、成長したと感じる割合が高まった。また、学年が上がるにつれて、行事への思い入れも強くなり、達成感も増した。今後は、担任がHRにおいて「できるようになったこと」を認めたり、ほめたりするなど、学校全体で「成長をふりかえるシート」を活用していくことが考えられる。
- (2) 生徒会執行部会で行事ごとにふりかえりをおこない、生徒会通信（1～3号）を発行することで、「成長をふりかえるシート」の集計結果などを生徒にフィードバックした。
- (3) 縦割りLHRでのグループ討議については、生徒から「自分たちで考えるから守ろうという気分になった」「できることだと思った」「みんなわかっていることなので、意識して行動することができればいい」「これからの学校生活で今まで以上に意識して行動していきたい」「コミュニケーション能力を鍛えたい」という感想があがった。「東高ルーブリック」については、全校集会で執行部が呼びかけをするなどして、学校全体の文化として浸透させていく必要がある。

校番	031	ホームルーム活動	○	生徒会活動	学校行事	別紙様式2
----	-----	----------	---	-------	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立松永高等学校	校長	宮原 敏典	生徒指導主事	山田 和弘
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『生徒会役員選挙』

**取組における育てたい資質・能力**

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「協調性・表現力」	3	「責任感・連帯感」	1	「使命感」	2

**取組のねらい**

学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、生徒同士で協力し、役割を分担して生徒会活動を実践していく組織をつくらせる。そのための合意形成の一つとしての選挙を生徒会組織への参画意識向上の足掛かりとする。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『リアリティの追及』
----------	-----------------------

- 1 第1回選挙管理委員会の開催  
本校の選挙管理委員会会則に基づき、生徒会長1名、生徒会副会長2名の選出に向けて準備を進める。
- 2 立候補者の受付
- 3 第2回選挙管理委員会の開催  
届出状況を確認し、立会演説会等の準備を進める。
- 4 立候補者の選挙運動  
立候補者名を掲示し、全校へ紹介する。立候補者は自主的に選挙運動を実施する。
- 5 立会演説会の開催  
選挙管理委員の進行により、推薦者と立候補者が演説を行う。
- 6 投票  
教室で選挙管理委員から投票用紙を配付し、記入した投票用紙を投票所で投函する。
- 7 開票・集計作業  
選挙管理委員が開票し、集計する。
- 8 開票結果の発表  
翌日のSHRで選挙管理委員長が全校放送する。
- 9 当選証書授与式  
校長から当選証書を授与する。

満18歳以上の者が選挙権を有することとなり、主権者教育が進められてきたこともあって、本校では、リアリティを持たせるため、福山市選挙管理委員会事務局と連携し、投票箱を借用して投票させている。



**取組の成果と課題**

立候補者と推薦者が自主的に挨拶運動に参加していたり、立会演説会では、仲間を惹きつける演説を行っていたりして、選挙活動としての雰囲気は作られてきている。

課題としては、生徒会活動として、役割を分担し、計画を立て、学校生活の課題を見いだして解決するための主体性を持たせることがとても大きな課題である。



校番	062	ホームルーム活動	○	生徒会活動	学校行事	別紙様式2
----	-----	----------	---	-------	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立安西高等学校	校長	馬屋原 幸孝	生徒指導主事	井上 美治
-----	------------	----	--------	--------	-------

**取組事例名** 『自転車セーフティチャレンジ!』に参加する

**取組における育てたい資質・能力**

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「自他の安全意識向上」	1	「主体性・積極性」	2	「地域から愛される」	3

**取組のねらい**

本校の育てたい生徒像である、『「社会につながる」ことを基盤として、「学び」「対話」「マナー」を大切に育てる生徒の育成』によく当てはまる、安佐南警察署の交通安全キャンペーンに参加して、上記3項目の達成の足掛かりとする。

取組の具体的内容	取組の創意工夫
----------	---------

<p>このキャンペーンでは、令和元年12月2日から令和2年1月6日の間の交通事故件数の少なさ、自転車窃盗被害件数の少なさそして交通安全活動の内容の三点が審査項目で、対象の高校は安川周辺の高校で、本校を含む3校が参加した。</p> <p>そこで、全校集会において、このキャンペーンについて周知し、全校生徒が最優秀賞を目指すことで意欲を持たせた。期間中に、生徒会執行部と部活動の生徒が街頭に立ち、「登下校時に2人乗り」や「ながら運転」等の道交法違反や、校則（平和台団地内で下校時は自転車に乗らず、押して下る）の違反がないかについて取り組んだ。違反している生徒がいた場合、停車を求め、生徒名を記録し、ルールを守るよう呼び掛けた。</p>	<p>①全校集会において生徒会長が、このキャンペーンについて説明し、マナーアップを呼び掛けた。</p> <p>②のぼり旗を持って街頭に立ち、キャンペーンのムードを盛り上げた。</p> <p>③生徒会独自で違反生徒をチェックした。</p> <p>④違反者と違反内容をグラフ化して活動報告書とともに送付した。</p>
---	--

**取組の成果と課題**

約1か月間の活動の中で、交通違反と交通事故の加害・被害件数は、この3校中本校が1番少なかった。ただ、生徒会が発見した校則違反は相当あり、法令・校則順守に対する主体性・積極性については依然として課題があることが分かった。しかしながら、生徒が生徒の違反を注意して、より地域に愛される学校づくりを目指した活動は、意義があったと思われる。

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立大竹高等学校	校長	流田 靖	生徒指導主事	岡本 茂生
-----	------------	----	------	--------	-------

**取組事例名** 『1学年 地域交流』

**取組における育てたい資質・能力**

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	1	「思いやり」	2	「自己有用感」	3

**取組のねらい**

- ・ 1学年，産業社会と人間の授業の一環による異校種間連携。
- ・ 幅広い年齢集団とのコミュニケーション能力の育成。
- ・ 地域社会へ参加することにより関心を高め，自らの将来への生き方を学ぶ。

取組の具体的内容	取組の創意工夫
----------	---------

- |   |                                       |
|---|---------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10月下旬，1学年における産業社会と人間の授業による取組。各クラスごとに，地域の保育所や小学校・養護老人ホームへ出向き，レクリエーションや手作りの遊戯・ゲームなど異年齢集団との積極的交流を図る。</li> <li>・ 少人数（6～8）のグループに分かれて出し物や交流・対話を中心に計画。</li> <li>・ 教員およびグループ代表者は訪問先と事前の協議・打ち合わせを複数回行い，心構えや留意点を確認する。</li> </ul> | <p>「共感的理解・相互理解」</p> <p>「礼儀・思いやる心」</p> |
|---|---------------------------------------|



「学習の成果を地域に発信する」

**取組の成果と課題**

- ・ 仲間との共同制作や積極的発表の機会を与えることにより，自己肯定感の向上やコミュニケーション能力の育成につながっている。
- ・ 地域の中で共に学ぶ異校種の存在から刺激を受け，自己有用感を高めることができた。
- ・ 学習の成果として90%以上の生徒が達成感を感じられた。
- ・ 総合学科発表会で1学年の取組として，プレゼンテーション能力の向上が図れた。

校番	032	ホームルーム活動	生徒会活動	○	学校行事	別紙様式2
----	-----	----------	-------	---	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立沼南高等学校	校長	矢野 智之	生徒指導主事	松浦 祐子
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『第16回 沼南高等学校 体育祭』

取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「お互いを認め合う」	2	「自分の役割に責任を持つ」	1	「自己肯定感」	3

**取組のねらい**

○体育祭への参加を通して、体力の向上や運動に親しむ態度の育成を図り、相互を尊重しながら自分の役割を責任を持って果たすことができる。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『助け合い』
<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年・クラスで出場種目のメンバーを決める（体育委員が運営）。</li> <li>○委員会単位で体育祭の運営業務を分担し、さらに委員会内で役割分担を行う。</li> <li>○学年練習を2時間確保し、行進練習や種目練習を通して学年の結束力を高める。</li> <li>○予行練習及び本番当日は、できるだけ生徒に運営を任せる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○出場種目数に偏りが出ないように、できるだけ生徒同士で調整させる。</li> <li>○統一委員会を開催し、業務内容を各委員会で徹底する。</li> <li>○行進練習でリズムを揃えるためには、お互いの掛け声が必要であることに気付かせる。</li> <li>○クラスを越えた種目練習を重ね、学年集団としての意識を高める。</li> <li>○予行練習で運営上の問題点があれば改善する。</li> <li>○種目の性格上危険な場面が予測される場合は、必ず教員の補助をつける。</li> <li>○自分の役割についての振り返りができる質問項目にする。</li> </ul>



○事後アンケートを実施する。

**取組の成果と課題**

**【成果】** 事後アンケートにおいて「自分の役割を責任を持って果たすことができたか」に対し96.1%、「クラス・学年など周囲の人の気持ちを考えて参加することができたか」に対し98.1%の生徒が「はい」と答えることができた。

**【課題】** 体育祭に対し生徒間に温度差のあるクラスでは、準備段階から役割分担や参加種目に偏りが見られ、そのことに不満感を持つ生徒がいる。

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立黒瀬高等学校	校長	慶徳 克二	生徒指導主事	藤本 倫考
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『進路講演会及び学校間連携事業合同生徒交流会への取り組み』

**取組における育てたい資質・能力**

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「自己肯定感・自己有用感」	1	「主体性・積極性」	3	「自己理解」	2

**取組のねらい**

講師を招聘し、2校の生徒が交流を深めながら、社会人としての自己の生き方在り方について考えるとともにPTAの研修機会とする。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『自己肯定感・自己有用感』
----------	--------------------------

○黒瀬・豊田高校校長挨拶

○PTA研修会兼進路講演会  
演題 「あなたを輝かせる勇気づくり方」  
講師 株式会社上司の魔法代表 黒岩 禅 氏



○学校間連携事業合同生徒交流会  
黒瀬・豊田高校生徒会長挨拶



学校紹介  
豊田高校「シーカヤック部の活動紹介」  
・パワーポイントを用いての紹介

黒瀬高校「福祉科による手話歌」  
・1年生「LEMON」  
・2年生「未来へ」



父からの虐待を受け、児童養護施設で育った生い立ちながらも、2度の店舗経営日本一に輝いた経験から、人のかかわりあいの中でどのように勇気を作っていくかという講演であった。恵まれない家庭環境の生徒も多くいる中で、将来に向けての夢や希望を持つ良いきっかけとなったように思う。

海に面した立地ならではの部活動と福祉科のあるそれぞれの学校の特色を活かした活動報告であった。それぞれの日々の活動を紹介する機会は自校の活動の意義を再認識する機会となった。

**取組の成果と課題**

生徒が将来、社会人として前向きに自己の生き方在り方について考えるために、日々の心構えを見直すためにも良い機会となった。PTAとの合同研修会とすることで保護者と共有できたことも収穫であった。生徒交流会では日々の活動の意義を再確認する意味では良い経験となったが、両校の生徒同士での話し合いなどの場面が設定できれば、より良い交流になると感じた。



校番	095	ホームルーム活動	生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事	別紙様式2
----	-----	----------	-------	-----------------------	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立福山商業高等学校	校長	田玄 和司	生徒指導主事	井手之上 訓芳
-----	--------------	----	-------	--------	---------

**取組事例名** 『 体 育 祭 』

**取組における育てたい資質・能力**

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「協調性」	1	「自主的, 実践的な態度」	3	「思考力・判断力・表現力」	2

**取組のねらい**

体育祭を通して、運動に親しみながら、学校への所属感や連帯感を深める。クラスの仲間と協力して競技に参加し、体育祭を成功させようとする自主的, 実践的な態度の育成を図る。体力の向上, 集団行動の体得と責任感を醸成する。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『行事に参画する』
----------	----------------------

『第2回 体育祭』を10月25日(金)に開催した。生徒会と教職員, P T A役員が協力・連携し, 昨年度の反省を踏まえたうえで, 本校の生徒の実態に合った競技種目の見直し, それに合わせた用器具の準備, プログラムの作成等を行った。

臨時時間割を組み, 該当学年団の教員も学年練習に参加して, 生徒の指導に当たった。学年団の教員が練習に参加することで, 生徒への指導が行き届き, 競技ごとの入退場の流れや競技方法, 注意事項などを生徒全体に周知徹底できた。

今年度もクラス役員に「体育祭実行委員」を位置づけ, 体育祭の運営では, 誘導係としてスムーズな進行に貢献した。また, 日常的に活動を継続しているサッカー部, バドミントン部, 野球部, ソフトテニス部, 卓球部, バasketボール部, ダンス部, 陸上部, バレーボール同好会など多くの部活動部員が, 運営に携わり, 競技以外のところでも活躍した。

・体育の授業において, 4月当初からラジオ体操第一や集合行動の練習を通して, グループ活動の時間を多くとり, グループ内で協力して行動することを大切にした取り組みを実施した。

・クラス単位の応援について, 生徒会執行部が作成した原案をもとに, 『応援のルール』を決定した。

**取組の成果と課題**

**成果**

- ・普段の学校生活では見られないような, 生徒自身が本気で取り組む姿が競技の場面で多くみられた。
- ・クラス対抗の競技を新しく入れたことで, クラスで協力して競い合うことが楽しかったという声が多かった。

**課題**

- ・競技内容や, 実施方法(参加人数・競技時間など)を見直して, 次年度以降に向けプログラム内容を改善する。
- ・練習に多くの時間を費やすが, 練習では真面目に取り組めない(取り組まない)という生徒の姿勢を改善させる。

